令和６年度
「マイスター・ハイスクール普及促進事業」

成 果 報 告 書

令和７年５月

山形県教育委員会

目　次

目　　次　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1　はじめに　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

2　マイスター・ハイスクール普及促進事業概要・・・・・・・・・・・・・3

3　県教育委員会の取組み
（１）～（３）事業運営委員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・6
（４）地域産学連携コーディネーターの派遣・・・・・・・・・・・・・・7
（５）産業教育連携校会議・研修会の開催・・・・・・・・・・・・・・・15

4　各産業系高校における取組み
（１）各学校における事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
（２）次世代分野（AI･IoT･UAV・ロボティクス）、（土木・建設）研修・18
（３）次世代分野産業現場実習（授業）及び長期インターンシップ・・・30
（４）次世代産業人材育成研修プログラム　生徒評価結果・・・・・・・45
（５）次世代産業人材育成研修プログラム　産業界価結果・・・・・・・46
5　各学校における産業教育連携協議会の主な取組み例・・・・・・・・・47

6　各学校における産業教育連携協議会事業の実績・・・・・・・・・・・56

7　ルーブリックを用いた事業評価と目標・・・・・・・・・・・・・・・70

8　運営委員会事業評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72

9　今後の課題・取組みについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

１　はじめに

山形県教育委員会では、令和４年 10 月の山形県産業教育審議会において、令和４年 10 月に「急激に変化する時代における本県産業教育の在り方について」の答申をいただき、今後、概ね 10 年間の本県産業教育の在り方について、方向性が定められました。この答申を踏まえ、令和５年度から全ての産業系県立高等学校に産業教育連携協議会（コンソーシアム）を設置し、各校独自の魅力化・特色化の推進を図る「フューチャープロジェクト」を開始いたしました。

「フューチャープロジェクト」におきましては、学校所在の自治体や地域、企業等との連携による事業を着実に進め、学校と地域や産業界が一体となり、連携・協働して地域課題の解決につなげるとともに、学校の一層の魅力化・特色化に努め、地域に無くてはならない学校として、存在意義を高めること、地域や中学生等へ産業高校の魅力を発信し、学校が持続的なものとなるよう、産業系高等学校を志す生徒を一人でも多く増やしたいという願いが込められております。

令和６年度の事業対象となる 14 校において、産業教育連携協議会の委員は 182 名に上り、その主な内訳は、企業の役員等 59 名、経済団体等 18 名、大学教授等 19 名、県市町村職員 37 名となっております。本県のそれぞれの分野で御活躍されております皆様に、委員をお引き受けいただいたことに心から感謝申し上げます。

更に、令和６年度からは文部科学省「マイスター・ハイスクール普及促進事業」の採択を受け、産業界と一体となって地域産業界を支える革新的職業人材の育成を実現し、一層の地域、産業界との連携を図るため、地域産学連携コーディネーターの派遣や各産業の次世代分野における人材育成事業を実施しております。

「マイスター・ハイスクール普及促進事業」の目指す方向性は、「フューチャープロジェクト」と軌を一にしており、２つの事業を効果的に実施することで、産業教育の一層の魅力化・特色化を図るとともに、産業系高等学校で学ぶ生徒に対し、各学科が目指す資質・能力を着実に育成することができると考えております。

県教育委員会といたしましては、本書記載の令和６年度の成果をもとに、本事業を一層推進してまいりたいと考えているところです。

最後に、本事業の実施にあたり、多くの御指導、御支援をいただきました文部科学省、運営委員会、産業教育連携協議会委員の皆様、並びに各高等学校の教職員等関係の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後とも本県高等学校教育の一層の充実・発展に御指導御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

令和７年５月
山形県教育局高校教育課長　伊藤　久敏

管理機関：山形県教育委員会　拠点校：山形県立産業系高校１５校　　令和６年度　マイスター・ハイスクール普及促進事業（連携体制強化型）

山形県魅力ある県立高校づくり推進事業「次世代地域産業人材育成事業」

《申請者の現状》
山形県教育委員会では、令和５年度からの新規事業において、持続可能な地域社会の実現や、産業系高校教育の充実のため、自治体・産業界・大学等で構成する協議会（コンソーシアム）を産業系高等学校14校に設置し、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や地域産業界との連携・協働による特色化・魅力化を図ることとした。（コンソーシアムの設置は、R7閉校の新庄南を除く。）

《実施内容》
本事業においては、産業系高等学校15校を拠点校に指定し、コンソーシアムの円滑な運営と地域産業界との連携強化を図るため、地域産学連携コーディネーターを派遣する。
拠点校における各産業の次世代分野（AI・IoT・ドローン・ロボティクス）の研修や産業現場における長期研修（インターンシップ）や地域産業界との連携を図る。（新庄南を拠点校に加える。）

《背景》
・中教審答申「新しい時代の高校教育の在り方」
・学校教育法施行規則改正(R4.4.1)
・山形県産業教育審議会答申(R4.10.26)

《課題》
・コンソーシアムにおける地域産業界との連携強化
・社会や各産業の変化に対応できる人材の育成
・山形の各産業の未来を担う人材の育成（県内定着）
・産業系高校の志願倍率の低下

県立産業系高校　産業教育連携協議会(コンソーシアム)

【大学・学校関係者】
・大学教授　・県立産業技術短期大学校教授等
・校長、同窓会、ＰＴＡ関係者等

【自治体】
・県、総合支庁担当課
・市、町教育委員会
・市、町担当部局長

拠点校15校

【産業界】
・商工会議所・企業
・ＪＡ、農業経営者
・市町商工会等

＜産業教育連携協議会(コンソーシアム)事務局＞
事務局長：各校事務部長（教頭、事務長）
事務局員：市、町各課員、市商工会、学科長等

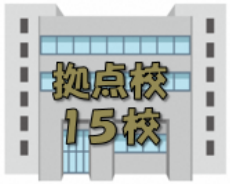
【コンソーシアムの事業概要】
・各産業高校に自治体、産業界、大学等からなる協議会を設置
・各産業高校の魅力化・特色化に向けた地域連携事業や教育課程について、協議会において検討する。
・各産業高校において、小中学校との連携を強化し、各産業の担い手を目指す入学者増を図る。

連携・支援

《目的》
○生徒が、地域や社会をフィールドとした学びの中で、技術の進展を肌で感じ、学校の学びを社会貢献に活かそうとする意欲を持つ職業人の育成
○外部人材の活用により、地域との連携・協働による探究型学習の推進
○地域産業の理解により、県内就職等地元定着や、大学等進学後の県内回帰

令和6年度　マイスター・ハイスクール普及促進事業
魅力ある県立高校づくり推進事業「山形県次世代地域産業人材育成事業」

【山形県教育委員会】
・事業運営委員会（年２回）
・地域産学連携コーディネーターの配置（拠点校へ派遣）
・産業教育連携校会議及び研修会（シンポジウム）の開催
・成果報告書（デジタル版）発行



【拠点校(山形県立産業系高校15校)】
・次世代産業人材育成研修プログラム
①次世代分野（AI・IoT・UAV・ロボティクス）研修
拠点校において、次世代分野のスペシャリストによる授業・研修の実施
②次世代産業分野長期研修（インターンシップ）
産業現場における長期研修において、地域産業の次世代を担う人材の育成を図る。

拠点校：職業に関する学科を設置する全ての山形県立高校15校

地域産学連携コーディネーターによる地域産業界とのマッチング

別添資料４

管理機関：山形県教育委員会　拠点校：山形県立産業系高校１５校　　令和６年度　マイスター・ハイスクール普及促進事業（連携体制強化型）

山形県教育委員会（管理機関）の取組み

11月第2土曜日は やまがた教育の日

１　運営委員会の開催（年２回）

（１）委員会構成

委員長：山形大学理学部教授　栗山　恭直　氏
委　員：上山市副市長　鈴木　英夫　氏
委　員：東北ハム株式会社代表取締役　帯谷　伸一　氏
委　員：県立産業技術短期大学校校長　佐藤　俊一　氏
委　員：県立山形工業高等学校校長　髙橋　良治　氏
事務局：県教育局高校教育課長、課長補佐、主任指導主事
　　指導主事（３名）

（２）運営委員会の内容

①事業計画・実績における成果指標の分析、検証及び次年度以降の計画の策定・承認
②拠点校における産業教育連携協議会の運営・地域連携に対する指導助言・評価

（３）開催（年２回）

①第１回運営委員会
令和６年７月１２日（金）
②第２回運営委員会
令和７年２月（持ち回り開催）

（４）主な意見（今後の課題）

①令和８年度以降の事業成果継続について
②産業教育連携協議会の自立化
　（外部からの資金獲得について）
③拠点校の特色ある取組の普及（横展開）について

第一回運営委員会

２　地域産学連携コーディネーターの派遣

（１）目的

拠点校に対し、地域産学連携コーディネーターを派遣し、産業教育連携協議会の円滑な運営と地域産業界との連携強化を図る。

（２）コーディネーターの役割

①拠点校における地域と学校の連携促進に関連する指導・助言
②拠点校のインターンシップ、地域連携に係るマッチング、巡回や企業への助言業務
③拠点校の学習成果発表会等における指導・助言
④外部機関との連絡調整、連携強化、大学や自治体、企業等の新たな連携先の開拓

（３）コーディネーター構成（得意分野）

①浅野　えみ　氏
（キャリア教育・探究学習・企業、管理職、経営者支援）
②伊藤　麻衣子　氏
（キャリア教育・企業、自治体支援）
③末永　玲於　氏
（起業、自治体支援・地域連携）
④大垣　敬寛　氏
（探究学習・起業支援・国際交流）

（３）コーディネーター派遣実績

①学校訪問日数39日（延べ）
②学校訪問時間117時間
③教育委員会勤務日数18日（延べ）
④教育委員会勤務時間69時間

産業教育連携協議会においてファシリテーターを務めるコーディネーター（加茂水産高校）

産業教育連携校会議・研修会

３　産業教育連携校会議・研修会の開催

（１）産業教育連携協議会による地域産業界との連携状況に関する情報交換や地域連携の先進県、先進校等の取組を学ぶ研修会を開催し、拠点校教員及び産業教育連携協議会委員等約40名が参加した。

４　成果報告書（デジタル版）の発行

（１）マイスター・ハイスクール普及促進事業における取組に加え、拠点校産業教育連携協議会の成果を記載し、事業成果について県内外に情報発信する。
※令和７年５月発行予定

別添資料４

管理機関：山形県教育委員会　拠点校：山形県立産業系高校１５校　　令和６年度　マイスター・ハイスクール普及促進事業（連携体制強化型）

拠点校の取組み（次世代産業人材育成研修プログラム）

（１）次世代分野（AI･IoT･UAV・ロボティクス）研修

①次世代分野のスペシャリスト（産業実務家又は大学教授等）による講義・実習の実施

・農業用ドローンの圃場での実習

・生成ＡＩ等の活用の学習

・介護ロボットによる実習

・トータルステーションの実習

（２）次世代分野産業現場実習及び長期インターンシップ

②企業・大学等産業現場における、各科目の実習、授業等の実施
③産業現場における概ね２週間程度の長期インターンシップの実施

・東北農林専門職大学等における体験講義

・製造業における機械加工実習

・地元企業におけるインターンシップ

・地元パン屋におけるインターンシップ

事業評価（生徒・産業界）

《生徒評価》

○次世代分野（AI・IoT・ドローン・ロボティクス）研修
生徒事後評価で「興味・関心」、「役割」、「必要性」に関して約60～90%が「聞いて高まった」に変容した。

○産業現場実習
「興味・関心」「自学科の社会での役割の理解」に関して「実習をとおして高まった」と回答し、実習により約70～80%が興味・関心を高めることができた。

○長期インターンシップ
「実践的な技能が身についたか」、「コミュニケーション能力や協調性が身についたか」等でほぼ100%が身に付いた、高まったと回答した。

《受入事業所（産業界）評価》

○次世代分野研修（産業現場実習・長期インターンシップ含む）
「実践的な技能」、「コミュニケーション能力や協調性」、「社会人としてのルール」について、約90%が身についたと回答。

○受入側のメリット・負担について
メリットとして、「高校や高校生と関係が構築できること」や「高校生の考え方が分かった」が上位を占めた。
負担として、２割程度の事業所において、「実習指導者の確保」、「実習プログラムの準備」との回答が上位を占めた。
一方、「負担はない」との回答も36%であった。

別添資料４

３　県教育委員会の取組み

（１）事業運営委員会の開催（年２回）

①運営委員会の内容

・事業計画・実績における成果指標の分析、検証及び次年度以降の事業計画の策定承認

・産業教育連携協議会の取組み・地域連携に対する指導助言・評価

②運営委員

委員長：山形大学理学部教授	栗山　恭直　氏	（山形工業高校産業教育連携協議会会長）
委　員：上山市副市長	鈴木　英夫　氏	（上山明新館高校産業教育連携協議会会長）
委　員：東北ハム株式会社代表取締役	帯谷　伸一　氏	（鶴岡工業高校産業教育連携協議会会長）
委　員：県立産業技術短期大学校校長	佐藤　俊一　氏（県産業教育審議会委員）	
委　員：県立山形工業高等学校校長	髙橋　良治　氏	（県高等学校産業教育連盟会長）

事務局：県教育局高校教育課長、課長補佐、主任指導主事、指導主事（３名）

（２）第１回事業運営委員会

①期日：令和６年７月１２日（金）

②場所：あこや会館

③内容

・産業教育審議会答申について

・フューチャープロジェクトについて

・マイスター・ハイスクール普及促進事業について

④質疑応答

・事業予算の使途について

・コーディネーターの人選について

・事業評価の方法について

⑤事業計画の承認

・出席委員全員の賛同により承認された。

（３）第２回事業運営委員会

①期日：令和７年２月 19 日（水）～２月 27 日（木）

②場所：委員の勤務公所（持ち回り開催）

③内容

・令和６年度山形県魅力ある県立高校づくり推進事業（マイスター・ハイスクール普及促進事業）報告について

④委員からの主な意見・事業評価（巻末６　運営委員会事業評価に記載）

⑤委員長総括・事業評価（巻末６　運営委員会事業評価に記載）

（４）地域産学連携コーディネーターの派遣

①目的

産業系高等学校に対し、地域産学連携コーディネーターを派遣し、産業教育連携協議会の円滑な運営と地域産業界との連携強化を図る。

・コーディネーターの役割
・産業教育連携協議会における地域と学校の連携促進に関連する指導・助言
・拠点校のインターンシップ、地域連携に係るマッチング、巡回や企業への助言業務
・拠点校の学習成果発表会等における指導・助言
・外部機関との連絡調整、連携強化、大学や自治体、企業等の新たな連携先の開拓

②山形県地域産学連携コーディネーター

	役職・所属等	氏名	地域	概　要
	carriere×mikke！代表 キャリアカウンセラー 国家資格 キャリアコンサルタント キャリアコンサルティング技能士 山形大学非常勤講師 平成 29 年～ 令和 4 年 山形県産業教育審議会委員 令和 4 年～ 現在 山形県産業構造審議会委員 令和 5 年～ 現在 山形県若年女性県内就職・定着促進協議会委員	浅野　えみ	村山	山形市出身、リクルートグループ入社後、子育てを機に山形へ U ターン。 大学・高校への就職支援や、働く「若者・女性」をメインにキャリア支援を行う。企業の教育顧問としても従事 ●専門（得意）分野 ○学生支援：就職セミナー・キャリアカウンセリング ・探究学習支援・キャリア教育 ○企業支援 ○経営者・管理職
	合同会社 work life shift 代表 山形県総合政策審議会委員 山形県若年女性県内就職定着促進協議会委員 鶴岡市総合計画審議会 産業専門委員 鶴岡中央高校学校評議員 鶴岡工業高校学校評議員	伊藤麻衣子	庄内	名古屋市出身、大手電機メーカーを経て鶴岡市へ移住。学生のキャリア教育に関わりながら、インターンシップのコーディネーターとしても活動し、企業の組織開発や採用サポートなども行う。 ●専門（得意）分野・実績 ○インターンシッププログラム ○自治体事業 ・鶴岡市：採用力アップセミナー ○個人 ・コーチング面談・起業支援
	株式会社山のむこう 代表取締役社長 山形県産業教育審議会委員	大垣　敬寛	置賜	横浜市出身、南陽市地域おこし協力隊として移住、探究教室 ESTEM、カフェ等を経営 ●専門（得意）分野 ○企業との探究学習 ○その他探究学習 ・国際交流・映画制作・アスリート連携・地域の歴史・宇宙・科学など様々な専門家との探究の実施 ○ICT 活用 ○その他 ・カフェ経営・アプリ開発
	株式会社ローカル・インキュベート代表取締役 第 7 次山形県教育振興計画検討委員 村山産業高校学校運営協議会委員	末永　玲於	村山 最上	富山県出身、村山市で関係人口創出事業に携わり、大学在学中に起業 ●専門（得意）分野 ・起業支援 ・空き店舗/空き家活用 ・観光振興 ・関係人口創出 ・地域共創の拠点づくり ・デジタルシティプロモーション

③山形県地域産学連携コーディネーター派遣・勤務状況

学校名	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
山形工業		11 月 16 日 電気電子科体験学習会 浅野 CN		1 月 21 日 全校課題研究発表会 浅野 CN 1 月 28 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 浅野 CN	2 月 18 日 第２回産業教育連携協議会 浅野 CN
上山明新館			12 月 13 日 食料生産科課題研究発表会 末永 CN	1 月 24 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 浅野 CN	2 月 7 日 第２回産業教育連携協議会 浅野 CN
山辺		11 月 18 日 山辺中学校との交流学習 末永 CN			2 月 13 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 末永 CN 2 月 27 日 第２回産業教育連携協議会 末永 CN
寒河江工業				1 月 15 日 M科課題研究発表会・産業教育連携協議会打合せ 浅野 CN	2 月 17 日 第２回産業教育連携協議会 浅野 CN
村山産業	10 月 22 日 第２回産業教育連携協議会 末永 CN	11 月 23 日 全日本製造業コマ大戦 浅野 CN	12 月 5 日 地域連携に関するヒアリング調査 末永ＣＮ	1 月 27 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 末永 CN	2 月 7 日 第３回産業教育連携協議会 末永 CN
新庄神室産業		11 月 11 日 地区企業ガイダンス 末永 CN		1 月 23 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 末永 CN	2 月 10 日 第２回産業教育連携協議会 末永 CN
米沢工業				1 月 16 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 大垣 CN 1 月 24 日 全校課題研究発表会 大垣 CN	2 月 27 日 第２回産業教育連携協議会 大垣 CN
米沢商業			12 月 19 日 ２年キャリア研究発表会 大垣 CN		2 月 13 日 課題研究発表会 大垣 CN
置賜農業			12 月 12 日 AI・IoT・ドローン・ロボティクスに関する出前講座 大垣 CN		2 月 4 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 大垣 CN 2 月 19 日 第３回産業教育連携協議会 大垣 CN

学校名	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
長井工業				1 月 15 日 全校課題研究発表会 大垣 CN 1 月 21 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 大垣 CN	
鶴岡工業				1 月 24 日 鶴工研究発表会 伊藤 CN	2 月 18 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 伊藤 CN 2 月 26 日 探究成果発表会　伊藤 CN
加茂水産			12 月 17 日 産業教育連携協議会に向けた打合せ 伊藤 CN	1 月 23 日 課題研究発表会・第２回産業教育連携協議会 伊藤 CN	
庄内農業					2 月 19 日 プロジェクト発表会・産業教育連携協議会事前打合せ 伊藤 CN 2 月 27 日 第２回産業教育連携協議会 伊藤 CN
酒田光陵			12 月 19 日 ２年しごとセミナー 伊藤 CN		2 月 6 日 工業科課題研究発表会 伊藤 CN
高校教育課	10 月 21 日 業務打合せ・採用研修 浅野 CN 末永 CN	11 月 12 日 伴走支援者との打合せ 末永 CN 伊藤 CN 大垣 CN 11 月 21 日 産業教育連携会議・研修会 末永 CN 伊藤 CN 大垣 CN 浅野 CN		１月７日 産業教育連携協議会前 業務打合せ 末永 CN 伊藤 CN 大垣 CN 浅野 CN 1 月 31 日 マイスター・ハイスクール成果発表会 末永 CN	2 月 20 日 年度末打合せ 浅野 CN 大垣 CN 2 月 28 日 年度末打合せ 伊藤 CN 末永 CN

④山形県地域産学連携コーディネーター派遣・勤務実績

・コーディネーター派遣：令和６年度　実績 186 時間

（学校訪問日数 39 日、117 時間＋教育委員会勤務 18 日、69 時間）

⑤山形県地域産学連携コーディネーター業務の例(業務報告書から抜粋)

コーディネーター氏名	末永　玲於
勤務日時	令和６年11月11日（月）14:00～17:00　　計３時間
勤務場所（所在地）	新庄市民プラザ(新庄市大手町1-60)

＜業務報告＞

概要：ガイダンスにおける最上地域の就職募集状況及び生徒の希望状況視察
場所:新庄市民プラザ
主催:最上地区雇用対策協議会
担当:新庄神室産業高校　教頭・進路部長
目的：地域の産業界と神室産業高等学校との関係性を調査し連携を模索する。

＜内容＞

・産業界や地元と連携した4つの取り組みをヒアリング
1　鮭川村みちのくひめゆりの抽出成分「ヒメリウム」を用いた化粧品開発
　所管：農業科　連携会社：株式会社テクノーブル（大阪）
2　昆虫食コオロギの飼育環境の整備
　所管：工業科　連携会社：ハイジェントテクノロジー（新庄支店）
3　ドローンを用いた農薬散布の実証事業　所管：農業科
4　ジモト大学への参加　所管・連携：最上総合支庁

◎ディスカッションポイント

最上地区雇用対策協議会に加盟する域内企業は、地元採用に熱心に取り組んでいるが、期待に見合う人材を就職に結びつけることが難しい状況にある。主な要因は以下の通り。

○進学率の増加及び生徒数の減少

進学希望者が増え、地元を離れて進学する生徒も増加しており、その結果、地元就職を選ぶ生徒が年々減少している。

○生徒の意識の変化

神室産業の生徒には、保護者の意見に従順な傾向が増している。自分で主体的に進路を選ぶ生徒は、県外や私立高校など、地元産業高校以外の選択肢を選ぶケースが増えている。進学先の選択肢が広がったことにより、地元の産業高校が以前ほど選ばれなくなってきている。

こうした背景から、地元企業が求める人材を地元就職へとつなげるためには、現状に応じた新たな取り組みが求められる。

コーディネーター氏名	末永　玲於
勤務日時	令和６年12月5日（木）13:00～16:00　計３時間
勤務場所（所在地）	村山産業高等学校（村山市楯岡北町1-3-1）

＜業務報告＞

◎前提

コンソーシアムのメンバーでもある地元企業：三和技術コンサルが荘内銀行（旧・楯岡支店）跡地の再開発プロジェクトを主導しているが、社会活動の一環として、スペースの一部を村産生の活動を展示・販売（農産物など）できるスペースとして開放することの検討が2024年11月ごろより開始された。

◎地域産学連携に係るヒアリング

場所:村山産業高等学校

目的：地域企業との連携（三和技術コンサル）の状況整理及びコンソーシアムの自走について

＜協議内容＞

・地元企業が積極的に高校に関わってくれる良い機会で、コンソーシアムの自走にも繋がっていくような良い話とは思う。
・一方で、レギュレーション設定や実務運用面の課題は山積している。
・12月～2月にかけて来年度の催事等の年間計画を出していくが、場所を使うならこの段階で決める必要がある。

◎地域企業へのヒアリング

概要：（株）三和技術コンサルタント（村山市）へのヒアリング

場所：オンライン

目的：当プロジェクトについて、学校側との温度感や意識の調整

協議内容

・活用内容については、貸した以上は一任したいし、どのような活用でも歓迎
・強いていうなら、農産物の販売などの常設や課外学習などにも使ってほしい
・2025年4月のOPENを予定しているので、一斉スタートできればなお良い。

◎課題整理

案件の進行管理やイニシアチブをとって進めるプロジェクトマネジメントの必要性を感じている。

◎今後のアクションアイテム

次回、現場（荘内銀行跡地）下見の方向性で協議を実施。村山産業高校長を交えてプロジェクトの方向性・実施内容・スケジュール等を整理する必要がある。

コーディネーター氏名	伊藤 麻衣子
勤務日時	令和７年１月 23 日（木）13：00～16：00　計３時間
勤務場所（所在地）	山形県立加茂水産高等学校（鶴岡市加茂大崩５９５）

１　業務報告

目的：産業教育連携協議会出席　　参加者：別紙のとおり
入手資料：連携協議会総会資料及び協議会事務局作成議事録
提出資料：研究協議スライド

２　内　　容

第２回産業教育連携協議会に出席。議事は以下のとおり。

1. 開会
2. 校長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議長委嘱
5. 協議：令和６年度事業報告及び会計中間報告について
6. 研究協議「志願者増に向けた取組み、効果的な情報発信について」ワークショップ

３　議事詳細

- 校長あいさつ：連携協議会の説明を改めてされ、委員の方々への謝辞があった。
- 会長あいさつ：課題研究発表の内容に触れ、当日提供された低利用魚を活用した肉まんは、協議会の成果であるとの言及があった。
- 事務局長より報告：インターンシップの実施、連携事業に関する報告、志願者増に向けた取り組みなどを資料に沿って報告。予算を使った事業である県外生受け入れのためのバスツアーの実施について説明があった。
- 会計報告

４　研究協議

ＣＮがファシリテーターを務め、４～５名のグループでワークショップを実施した。
各グループから出された代表的な意見は下記の通り。

- 加茂水産高校の良いところ・強み

○海のすぐそばで学べる。立地環境が良い。
○海も船もあり研究、実践できる素材が豊富。
○確かな実習ができる。
○スーパープロフェッショナルハイスクールの連携体制が今も続いており、大学・企業・海洋に関する関係機関からの協力体制がある。
○多種多様な資格が取れる。
○教員の数が多く、手厚い指導がある。

- 加茂水産高校の残念なところ、もっと良くすると志願者が増えると思われること

○通学が困難。スクールバスがあると良い。
○「水産」という校名のイメージが良くない。「海洋」に変えると良いのでは。
○学食や売店、近くにコンビニなど買い物ができるところがない。
○中学生へのアピールでは遅く、小学生にアピールすると良い。
○学べる内容が外部に伝わっていない。水産科という学科名から連想される内容では何を学ぶか伝わらない。
○県外からの入学者を募るのに資金をかけているが、地元からの志願者を増やすために資金を使っていない。
○水産系の大学が県内にないので、やる気のある生徒は県外に進学する。
○以前の「荒れている学校」の印象が強い保護者が多い。
○オープンキャンパスの内容では、学校の楽しさが伝わっていない。

- 次年度実施すると良さそうなこと、協力できそうなこと

○カモンマーレ（日本財団「渚の交番」の施設）に遊びに来る小学生との接点を増やせば良いのでは
○小学校で実施されている海洋教育のコンテンツを提案して、小学生と生徒の接点を持たせる。
○鳥海丸のアピールを増やす。
○加茂水族館に、学校案内のパンフレットを設置する。
○現役の船員や漁師の話が聞けることをアピールする。
○水産物加工品の共同研究を企業と合同でする。
○漁業組合で実施している「お魚出前教室」に生徒も一緒に出る。

終了後、校長、教頭と今後の打ち合わせを実施した。

コーディネーター氏名	大垣 敬寛
勤務日時	令和7年1月24日(火)9:30～12:30 計3時間
勤務場所(所在地)	米沢市民文化会館

【米沢工業高校 全校課題研究発表会】

全校課題研究発表会を視察し、佐藤有二校長にご対応いただきました。

■内容

- 開会行事（校長先生からのごあいさつ）
- 第一部発表（質疑応答の時間がとられており、生徒が司会進行を進めていました。）
- 第二部発表・専攻科研究発表
- 講評（荘内銀行様から）
- 閉会行事

■所感

どの課題研究も、外部の企業や団体と連携しながら進めている様子を感じました。

一歩委で、企業連携をするほど、どうしても長期的な時間や日々取り組む時間も必要になっていくので、企業連携をした際に十分な時間（準備時間も作業時間も）を確保できるのか、学校のカリキュラムと合わせて検討していくことの重要性を感じました。

■学校側へのフィードバック（下記の内容を学校側にお送りしました。）

□全体についての感想

緊張感のある空気の中、生徒自身が司会進行まで務めて進めていくという形は、場慣れという意味で子どもたちの良い経験になると感じました。

□それぞれの発表についての感想

◇ペット見守りシステム「みまもる君」の製作

自分のペットのウサギという身近なところから課題研究を始めているのは非常に良いと思いました。

市販品で同じようなものがあると見つかったときに、どういう方向に進むか悩んだと思いますが、より観点を絞ってみると良いかもしれないと感じました。コストをいかに下げるのかという点に絞って考えたり、音声を伝える機能に絞って考えたりすると、より市販品とは違った価値が出しやすいと思います。

◇VRの活用～校舎内部をつくる～

この技術面白いというところから考えることはとても良いことですし、ぜひ今後も面白そうな技術にはどんどん触ってほしいなと思います。また、最後の年だからVRとして見られるようにというコンセプトは良いと思いました。

作成したワールドをどう活用していくかが今後大事になってくると思います。（VRの普及が進んでおらず、認知の拡大という点でVRは力を充分発揮できていないと思います）

◇郵便ポストの再利用 ～QRを利用した防災について～

郵便ポストを防災に活用という視点はユニークで非常に良いと思いました。また、実際に海外の方向けの動画を実際に作ってみてイメージを伝えられるようにするというところも、とても良かったと思います。

一方、郵便ポストの防災活用と、海外の方への防災サポートというところは別のテーマだと思うので、別々に考えてみたほうが良いのではと感じました。

◇箪笥の金具を作ってみようproject

金具職人の方と出会ったことをきっかけに、好奇心をもってチームで楽しみながらとりくんでいる様子が伝わってきました。ゴールありきではなかったと思いますが、一つ一つやってみようというところから、課題を見つけて試行錯誤を繰り返していく過程はまさに探究であり、他の人にはない、自分たちだけの経験が得られたのではと思います。

◇出羽善光寺 実測調査

かなり実用的で、しっかりと技術も身についている様子が感じられました。

ジャストアイデアですが、VRチームなどと連携することで、測量したデータからメタバースへの展開なども可能とは思います。

◇DX時代における「アバターとAIとを活用したものづくり」

・AIとアバターを活用した防災装置の作成

実際にやってみて、アバター＋人工音声ではなかなか難しいとのことでしたが、人工音声ではなく肉声を変換したり、よりリアルなアバターにしたりと、「アバターならば、誰でも対応ができる」という発想を生かしていろいろと対策もできると思いますので、ぜひ検討を続けていただければと思います。

・メタバースとアバターを活用した新たな仕組みづくりの研究

文章・音声・動画など生成AIを活用したサポートは、世界でもいかに実用化していくかという研究が進んでいる最先端の分野です。

AIによって「目と耳ができた」ということが言われるようになりましたが、何かを購入する、現実世界にリンクさせるというようなAIによる「手」の部分は世界的にも研究の余地が多く残っている分野ですので、そうした所に注力いただきたいと思います。

コーディネーター氏名	浅野　えみ
勤務日時	令和7年2月17日（月）14：00～17：00　計3時間
勤務場所(所在地)	山形県立寒河江工業高校

【開会・会長・校長挨拶】

・学校への想いの共有：特色化・魅力化のある学校へ。現状、卒業後の就職者の９割が地元就職、８割が地元進学という地元に根差した学校であることを確認。
・公立校推薦入試の状況：メカニカルエンジニア科、ロボットエンジニア科は喜べない状況。IT エンジニア科は良い状況。今後の一般入試の状況に注視したい。
・情報発信について：校長主導で日常を Instagram で発信しているが、最近、生徒会作成「ふるさと CM 大賞」に選ばれた動画を投稿したらバズった。＊校長動画 2,000 再生　➡　生徒動画 11.000 再生。若者の力、総合力が必要と考える。今後は、学びと共に、楽しい学校だったと思える高校生活作りに支援したい。

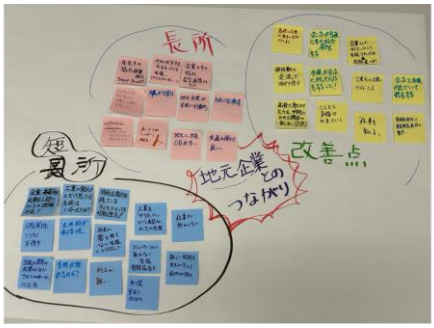
【協議内容】＊別紙配布資料参照

【ワークショップ】

① 自己紹介　私と寒河江工業　関わり
OB はじめ、実習などで関わってきた行政、企業の方々。また、中高大連携を想定した校長先生、大学の先生の参加

② 今年度の振り返りと寒河江工業高校の「強み」
・新校舎、新しい機械、資格取得、専門性を磨ける
・中央工業団地内にある、駅近
・後援会の存在、地元に OB が多い、活躍している OB を実感できる伝統校
・地元企業が本校に友好的、先生方の協力体制、産学官の連携協力がある
・地域と関わる機会がある（発明クラブ、お神輿等）
・生徒の特性＝しっかりしていて明るく、やればできる
・就職はもちろん、実は進学にも有利であること

③ もっとこうしたら良いのではないかと思うことや寒河江工業高校の「弱み」
・工業高校のイメージ、生徒指導、進学指導
（就職先が工業系、昔のドラマのような不良生徒）
・入学者数、部活動の充実、PR 不足
・生徒の変化（工業への興味・関心やコミュニケーションが苦手など）
・土木科がなくなった。交通の便（鉄道のダイヤ）



④　上記を踏まえ、自走を見据えた今、次年度へ向けて、私・私たち（個人・組織）は何ができるか
・学校、学科の特色化
・実習、課題研究の充実（実際の社会課題へのアプローチと成果を出せる取り組み）
・産学官の連携を強める（with 産技短）
・広報（高校生が中学生に寒工で身に付けたスキルを魅せる、情報発信、ママ友への情報提供）
・長期休み時のアルバイト希望者を、企業とタイアップして、経験を積ませる機会と捉え、工業系の企業を紹介（校内にアルバイトボード設置）
・企業と生徒の交流の機会の創出
（企業の人が身近な存在として話をする機会、部活動の交流で繋がり作り）
・後援会会計を産業教育連携へ

⑤　模造紙にて共有次年度へ課題繰越
・「思っていることを互いに話せて良かった」「話聞きに来たと思ったけど、こういうのいいねー」と感想を言いに来て下さった委員の方々がいらっしゃいました。報告の場ではなく、共に作り上げていく場である共通の認識を持つスタートに立てた。
・強みをハード面＝新校舎と答える方が多く、本筋である学校の特色化、魅力化に向けて、一丸となって考え、作り上げていかなければいけないという認識が強まった。

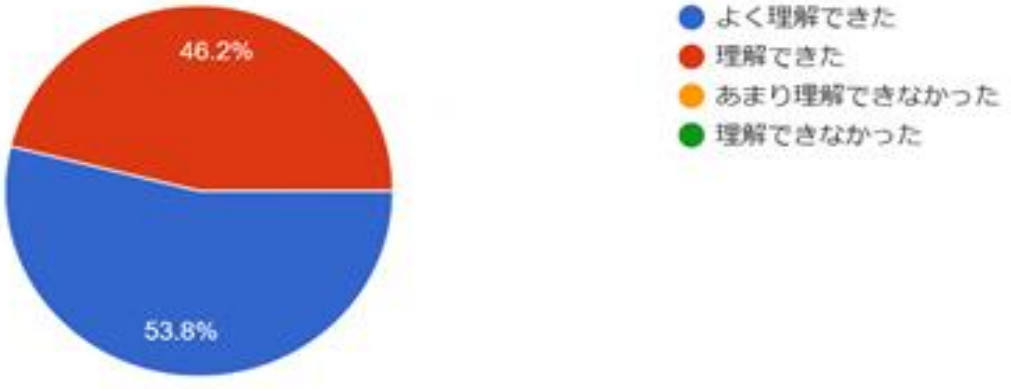
【CN の参加させていただいた感想】

・事務局(学校側)以外、委員の構成が男性のみなので、女性の視点も入れると、また違ったアイディアも生まれるのではないでしょうか。
・ワークショップの中では、先生方からの情報提供の段階とお見受けしました。こういった場を重ね、課題の共有をしていくことで、互いに win-win の関係性を気づいていけるのだと思います。産学官連携で、地域が学校の思いや課題を理解した上で、協力・提案ができるくらいの関わりを目指していけることを願います。

（５）産業教育連携校会議・研修会の開催

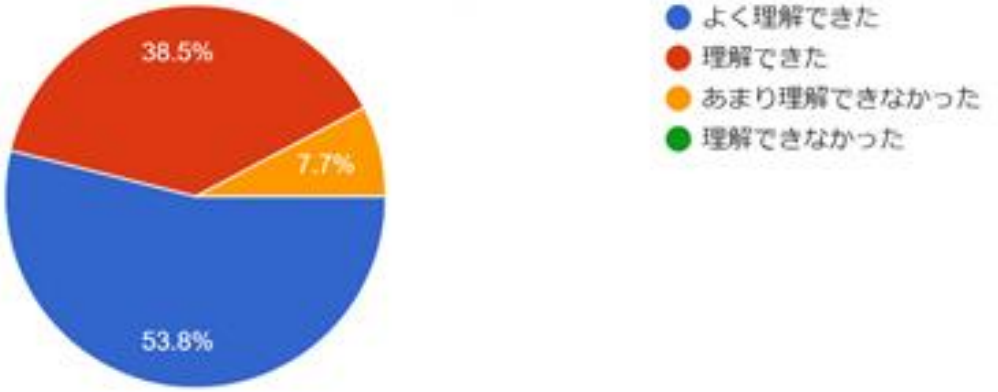
①目　的：産業教育連携協議会による地域産業界との連携状況について情報交換や地域連携の先進県、先進校等の取組を学ぶ研修会を開催する。
②期　日：令和６年 11 月 21 日
③場　所：山形県庁 15 階　1502 会議室
④参加者：学校・産業教育連携協議会委員等 23 名・コーディネーター、事務局９名
⑤内　容
- マイスター・ハイスクール普及促進事業説明
  地域産学連携コーディネーターの紹介
- 各学校の取組み紹介（グループごとに分かれて発表）
- 事例発表　福井県立坂井高等学校　産学官連携コーディネーター　南　良一　氏
- 研修　マイスター・ハイスクールで目指すもの
  （一財）地域・教育魅力化プラットフォーム　研究開発員　岡崎　エミ　氏
- 説明　マイスター・ハイスクールの成功と失敗　～３年間の取組みを通して～
  株式会社内田洋行　教育総合研究所　井上　信介　氏
- 研修　自校（協議会）の協働体制到達度理解　岡崎　エミ　氏
- 講義　産業教育連携協議会の協働体制のレベルを高めるために
  文部科学省総合教育政策局　ＣＳマイスター　布川　元　氏
- 研修　エコシステム構築のためのステップ・協働体制構築を阻む問題分析
- 研修　協働体制構築のためのアイデア創出　岡崎　エミ　氏

①　本研修の目標である産業界や地域との連携、産業教育連携協議会との協働体制の必要性を理解することができましたか。



② 研修会に参加して、地域、産業界との連携を推進したいと思うようになりましたか。

③ 本研修の目標であるコーディネーターの役割やコーディネーターと協働することの重要性を理解することができましたか。



④ 研修会の全体を通しての感想を自由に書いてください。

○コーディネーターの必要性を感じました。企業との打合せや会議がスムーズにいくと思います。
○まず、各校と情報を共有できたことが何よりです。また、連携協議会の在り方、進め方、校内の共通理解、企業との協働体制等、これまで抱いていた疑問点・不安点について事例を挙げてご指導いただけて、担当者として今後の指針となりました。
○地域連携や企業とのつながりなど、様々な学びがありました。ありがとうございました。
△（他県事例の）先進校や分析担当（文科省委託調査研究）で解釈に差があると感じられた。このあたりの統一普及が大切であると思う。

4　各産業系高校における取組み

（１）各学校における事業概要

令和６年度　産業系高校フューチャープロジェクト取組状況

	連携協議会長	地域企業、大学等との連携・共同研究	小、中学校等との連携	学校の魅力発信	令和5年度実績
１山形工業	山形大学　理学部 教授　栗山　恭直　氏	・蔵王温泉イノベーション計画（硫黄の影響による電気設備の問題解決、温泉成分を利用した新商品開発） ・山形大学と連携した「リアルメタバース研究所」	・小中学生対象「未来ものづくり教室」 ・小学校への出前授業（山形市・天童市） ・小中学生対象「プログラミング教室」	・学校説明会の充実（全面広告等） ・ホームページやSNS等を活用した情報発信、CMの制作や各種メディア活用	・高大連携により、山大４名、芸工大22名、産技短24名の合格 ・学校見学会553名（前年+1.6倍増）
２上山明新館	上山市　副市長 鈴木　英夫　氏	・明新館夢未来計画と称し、スチューデントリーダーを中心とする地域連携探究学習の充実 ・地元企業との連携による商品開発（山形プリン）	・放課後児童教室における花生教室の開催 ・探究学習の成果等について、市教委と連携し、小中学校の教育活動に還元する。	・学校公開日、部活動体験会、中学生一日体験入学、個別相談会の拡充 ・学校PVの制作、HPやインスタの活用	・協議会委員の出前講座、校外学習による探究学習の実施 ・芸工大との連携によるPVの制作
３山　　辺	飛塚塗装代表取締役 飛塚　　武　氏	・高校ふれあい広場（高校生レストラン、こども縁日ハンドマッサージ）の定期開催 ・ふるさと納税、クラウドファンディングの研究	・小中学校への出前授業の実施 ・小中学校、特別支援学校との交流 ・町内幼稚園のボランティア交流（看護）	・学校見学会の充実（アピール作戦） ・生徒会を中心としたSNSによる発信 ・高齢者弁当、お茶のみサロンの開催	・高校生レストランの定期開催化 ・高校生環境にやさしい料理コンテストグランプリ等多数の入賞実績
4楯河江工業	那須電機株式会社代表取締役　那須　重義　氏	・産学連携による海ごみ回収ロボットの研究 ・輪がまちマルシェへの協力 ・楯河江市次世代子育てステーションとの連携	・各中学校を訪問しての学校説明（７回） ・楯河江市立小学校でのものづくり教室 ・学校チラシの中学３年生教室への配付	・HPリニューアル、Instagramの充実 ・街角テレビによる学校広告放映 ・学校チラシ作成と配付（村山全域）	・学校祭来場者500名、SNSフォロワー500名、中学校訪問による説明会 ・協議会委員による課題研究指導
5村山産業	（株）otias代表取締役社長 齋藤　伸治　氏	・農工連携カーボンニュートラルチャレンジ ・全日本製造業コマ大戦むらさん場所の開催 ・地域と連携したPR活動、外部人材の活用	・中学生、保護者向け学校説明会の充実 ・小中学校への出前授業の開催	・広報活動レベルアッププロジェクトにより、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ，ＨＰ等の刷新 ・ナイトオープンスクール等の開催	・村山市、企業等と連携し、村山市PR動画を制作 ・全日本コマ大戦には140名が来場
6新庄神室	（株）山形メタル代表取締役　庄司　正人　氏	・山大、芸工大、地域と連携した総探の時間の充実 ・行政、企業と連携したスマート農業、商品開発学習 ・農工連携による温室の環境制御共同研究	・小中連携事業（公開講座及び出前授業等の体験活動）の実施、充実	・PRポスター、スタッフシャツの製作 ・HP、X、Instagramなどによるタイムリーな情報発信	・小中学校出前講座（農6、工12） ・農業新技術に関する教員研修実施 ・地域、産業界の外部講師延べ20名
7米沢工業	山形大学工学部 副学部長　齋藤　敦　氏	・山大、モビリティ専門職大と連携した研修 ・米沢市と連携したゼロエミッションの実施 ・大学や自治体、企業等と連携した探究学習	・ものづくり教室や防災・減災の学習を通した学校間交流の実施 ・暑さを考慮し、夏休み以外の説明会開催	・HP、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ、ﾊﾞﾘｱﾃｨの有効活用 ・生徒会を巻き込んだInstagramなどのSNSの有効活用	・小中学校出前授業、学校説明会参加者延べ346名 ・福島ﾛﾎﾞｯﾄﾃｽﾄﾌｨｰﾙﾄﾞへの視察
8米沢商業	ナウエル株式会社取締役会長・米沢商工会議所常議員 宮嶋　敏郎　氏	・地域企業を知る研究の充実 （地元企業のインタビュー訪問とまとめ動画の作成） ・地域のお宝開発（米沢味のＡＢＣ商品開発）	・新高校に向けた学校説明、PR実施 ・米商校歌、校訓入りシール作成、中学生へ配布	・米工と協力して新高校のパンフレット等を置賜全中学生へ配布 ・米商思い出記念行事の開催	・積極的な情報発信等により、3年連続で入選の最終倍率は約１倍を維持 ・開校に向けた多様なイベント開催
9置賜農業	体育文化後援会長・川西町議会議員 鈴木　孝之　氏	・産官学連携による地域農業課題解決学習の充実 ・専門職大、農林大学校、先進農家訪問研修 ・地域人材を活用した農業学習の充実	・地区全ての中学3年への広報活動の実施 ・小中学生を対象とした「いのち」を学ぶ出前授業、体験学習の実施	・農産物販売、動物ふれあい体験の折り込みチラシを近隣地区に配布 ・HPのパノラマビューの作成	・YouTubeの充実（8/20現在311本） ・事業後のアンケートでは、生徒の農業学習の意欲が倍以上となった。
10長井工業	体育文化後援会長・(株)ﾗｲﾌｽﾃｰｼｮﾝ代表取締役　高石　一夫　氏	・農業生産の工業化（複数企業との共同研究） ・地域企業研修の実施（午前：企業見学、昼食：地元食材、午後：若手社員の講話）	・白鷹、長井中学生対象の説明会・見学会 ・全校課題研究発表会に長井市内中学2年生、協議会委員等を招待（長井市民会館）	・SNS等の充実（Instagram開設） ・文化祭における広報活動の充実や小学生及び保護者向けドローン教室開催	・小中学生への体験学習会後のｱﾝｹｰﾄでは、工業への興味向上が86% ・研究発表会を中学生も招き開催
11鶴岡工業	（株）東北ハム 代表取締役社長 帯谷　伸一　氏	・「新たな産業を創ろう」起業家精神プロジェクト ・「工業を活かして地域貢献しよう」プロジェクト ・鶴工メタバースチャレンジ塾　地元鶴岡の魅力発信	・体験入学、部活動見学会の充実 （課題研究等の研究成果の積極的な発信）	・HPやﾏｽﾒﾃﾞｨｱ活用の情報発信 ・受検者増を狙った学校紹介制作 ・学校紹介ﾒﾀﾊﾞｰｽﾍｱｸｾｽ誘導	・探究学習の地域連携が一層推進 ・youtubeでCM掲載後の学校HPのアクセス数前年比1.5倍
12加茂水産	山形県水産研究所長 阿部　信彦　氏	・地域海洋水産に関連する課題解決研究の地域連携（ｶﾅ、ｳﾆ養殖、定置網、DNA生物調査、加茂水族館） ・各系列ごとの産業教育魅力企画バスツアーの実施	・海洋教育研究会における小中連携 ・中学生対象の鳥海丸体験航海 ・やまがた海洋塾との連携	・鳥海丸寄港先のyoutube配信 ・ﾊﾓﾏｰﾚｲﾍﾞﾝﾄ、鶴岡大産業祭、鶴岡麺フェス、寒ダラ祭への参加	・学校説明会参加者延べ64校109名 ・学校PRパンフレット1,200部配布 ・大山小とのヒラメ・クロダイ講習
13庄内農業	庄内農業高校同窓会長 齋藤　　隆　氏	・地域飲食店と連携した「庄農うどん大作戦」 ・山大農、地域産業高校と連携した共同研究（ｱｲｶﾞﾓﾛﾎﾞｯﾄ、加工品試食会の開催等）	・体験入学、オープンキャンパスの充実 ・幼稚園との連携（田植えとロボットかるがも農法体験）	・２本目のﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝﾋﾞﾃﾞｵ制作 ・HPやSNS等の効果的な活用（生徒と教員の協働による情報発信）	・山大農学部との連携強化（ｽﾏｰﾄﾃｸﾉｰﾙ事業、ｱﾒﾘｶｽﾏｱﾌﾟﾘの研究） ・専門家と連携した学校PRPVの制作
14酒田光陵	学校運営協議会会長 守屋　裕孝　氏	・酒田船箪笥伝統工芸品をルーブル美術館へ ・動画編集、制作研修会（教員、生徒対象） ・協議会自走化に向けた在り方準備・検討の開始	・酒田市教育委員会との連携による小、中保護者、教員等対象事業の複数開催 ・地区中学校長会での事業説明	・学校紹介動画制作 ・SNS等効果的な情報発信の在り方の研究	・教育系YouTuberとのｺﾗﾎﾞPV制作 ・地区中学校長会での事業説明 ・世界で活躍するﾄｯﾌﾟｾﾐﾅｰの開催

©2024　Yamagata Prefecture Board of Education

（２）次世代分野（AI･IoT･UAV・ロボティクス）研修（土木・建設）研修

次世代分野のスペシャリスト（産業実務家又は大学教授等）による講義・実習を実施

〇主な実習例

・農業分野：農業用ドローンの圃場での実習等

・工業分野：測量用ＵＡＶ(ドローン)の技術実習、大学教授による明るい未来を創る電子制御システムの学習、生成ＡＩチャットＧＰＴの活用の学習等

・福祉分野：介護ロボットによる実習や講義を実施

①　山形県立山形工業高等学校

１　事業実績

ア．株式会社ハイテックシステムによるAI、IoT技術に関する講義：２年生１９７名。

イ．県内土木企業の魅力の講義と小グループによる意見交換：２年生土木技術コース２７名。

２　主な内容

ア．・自己紹介とこれまでの仕事について
　　・株式会社ハイテックシステムについて
　　・AIやIoT技術のこれまでと未来について

イ．各企業における土木の仕事内容とその魅力について２班に分かれて講話と意見交換を行った。

②　山形県立上山明新館高等学校

１　事業実績

ア．イノチオプラントケア株式会社による農業用ドローン体験研修：２年生１３名。

イ．地元農業法人による農業におけるAI・IoTやSNSの活用について：１・２年生６７名。

２　主な内容

ア．今回の研修は本校で行った。左沢高校の生徒も参加しての研修となった。農業用ドローンの近年の動向や山形県での活用事例を説明していただいた。その後、圃場でのドローンのデモフライトとドローンを使用した農薬散布の見学させていただいた。農業用ドローンは1台300万円以上するため、学校現場ではなかなか見ることができない。最新のドローンを見ることができ、生徒にとって学びの多い時間となった。

イ．農業におけるAIとIoTの活用やSNSの活用を行った。

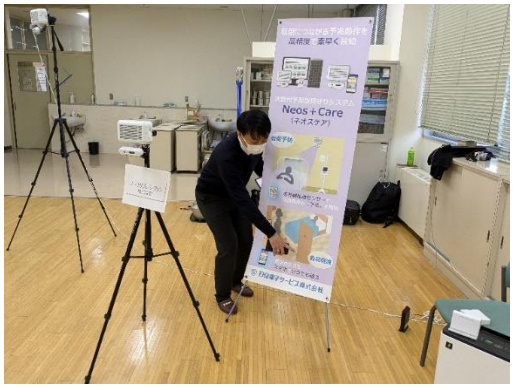
③　山形県立山辺高等学校

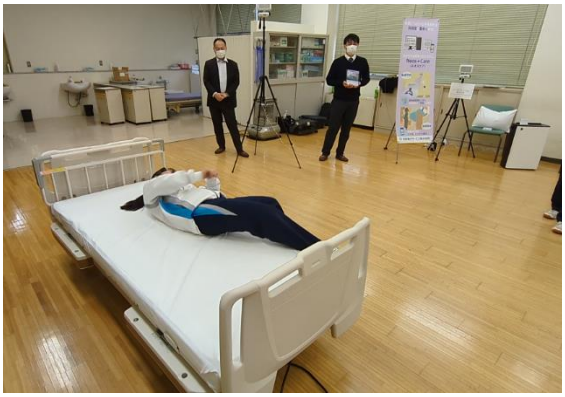
１　事業実績

ア．介護ロボットメーカー3 社による実演及び体験と福祉を取り巻く環境と介護ロボットの役割について講演：２・３年生３０名。

２　主な内容

ア．・講話「福祉を取り巻く環境と介護ロボットの役割」（介護ロボット普及協会）
・介護ロボットメーカー3社による実演及び体験
①株式会社アイザック（福島県会津若松市）
②酒井医療株式会社（宮城県仙台市）
③日信電子サービス株式会社（東京都東京（特別区））





④　山形県立寒河江工業高等学校

１　事業実績

ア．デジコンキューブ株式会社による地域産業で活躍するためのキャリアパスやAI・ドローンの活用事例、社会の変化について講義：全生徒２３８名。

２　主な内容

ア．【第１部】はじめに（5分）
　自己紹介・テーマの説明
　【第２部】キャリア教育について（30分）
　地域産業で活躍するために求められるキャリアパスとは
　【第３部】AI・IoT・ドローン・ロボティクスについて（35分）
　AIやドローンの活用事例、どのように社会が変化してきているのか
　【第４部】終わりに（10分）
　質疑応答

⑤　山形県立村山産業高等学校

１　事業実績

ア．三和技術コンサルタント株式会社による産業用ドローンの活用事例、今後のドローン産業について講義：１・２年生２５名。

イ．株式会社スプリックスによるスマート農業への展望について講義とシステム開発、プログラム設計実習：２年生４０名。

ウ．建設業協会村山支部によるディスカッションおよび現場実習：１年生２０名。

２　主な内容

ア．産業現場におけるドローンの活用事例と今後のドローン産業について。

イ．スマート農業への展望について下記の内容で講義と実習を行った。

　　１システム開発と設計　２プログラム設計

ウ．ディスカッションおよび現場実習（生コン打設・暗渠パイプ移送・集水桝の敷設・砂利の輸送及び敷き均し・グループごとのディスカッションと全体報告）を行った。

⑥　山形県立新庄南高等学校

１　事業実績

ア．陸上自衛隊神町駐屯地第２０普通科連隊（ドローン所持部隊）、第６情報隊（UAV 所持部隊）による７月の豪雨災害や、近年の県内の災害支援を例に、災害時に無人ドローンが果たす役割について講義。また、日本の近隣諸国におけるサイバー犯罪、さらに宇宙空間におけるサイバーセキュリティについて講義を実施：２・３年生３６名。

２　主な内容

ア．7月の豪雨災害に見舞われた本市や、近年の県内の災害支援を例に、災害時に無人ドローンが果たす役割についてお話をいただいた。また、日本の近隣諸国におけるサイバー犯罪、さらに宇宙空間におけるサイバーセキュリティについてのお話をお聞きした。

⑦　山形県立新庄神室産業高等学校

１　事業実績

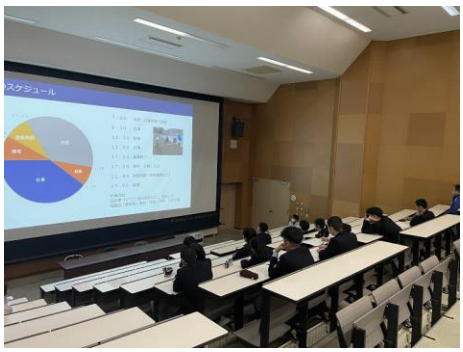
ア．大和工営株式会社技師によるドローン測量技術研修、ドローン自動飛行やウェイポイント飛行・手動飛行における写真撮影等の技術研修実施：３年生７名。

イ．株式会社柿崎工務所、沼田建設株式会社、県最上総合支庁農林整備課の技術者による企業紹介や講話、小グループに分かれたグループディスカッションを実施：２年生１６名。

２　主な内容

ア．ドローンの自動飛行やウェイポイント飛行、手動飛行での写真撮影及びオルソ画像の比較と点群データへの変換等の技術研修を行った。

イ．仕事の紹介や講話、小グループに分かれてのディスカッションを行った。



⑧　山形県立米沢工業高等学校

１　事業実績

ア．生成ＡＩ（人工知能）チャットＧＰＴについての現状とこれからの利用例などを学習した。最新の情報を紹介する形で講義を実施：２年生７９名。

イ．南陽市建設課、古久根建設株式会社、太田建設株式会社、株式会社置賜総合開発における仕事の意義や高校で学ぶべき事の全体講話やグループワークを実施：２年生１７名。

２　主な内容

ア．生成ＡＩについての現状とこれからの利用例などを、「チャットＧＰＴ」を通し、その活用方法について学習した。ごく最新の情報を紹介していただき、生徒の関心も高かった。

イ．全体講話及びグループワーク。仕事の意義と現場での苦労、高校で学ぶべき事を中心に話しを進めた。

⑨　山形県立置賜農業高等学校

１　事業実績

ア．生成ＡＩ（人工知能）チャットＧＰＴについての現状とこれからの利用例などを学習した。最新の情報を紹介する形で講義を実施：２年生７９名。

イ．株式会社ケンコン技術管理室長と技師によるトータルステーションの測量実習：2 年生２名。

２　主な内容

ア．先進的な機器を導入すれば生産の安定や増収に直ぐに繋がるものではなく、如何に経営形態に合った機器を選択し経営者が活用できるかが課題である。使用する側の正しい認識とスキルがあることで、スマート農業は有効に生かすことができる技術であることを学んだ。

イ．トータルステーションの測量実習を行った。

⑩　山形県立長井工業高等学校

１　事業実績

ア．電動モビリティシステム専門職大学教授による「明るい未来を創る電子制御システム」：全校１５５名。

２　主な内容

ア．電動モビリティシステム専門職大学教授による「明るい未来を創る電子制御システム」という演題にて、ＡＩ・ＩｏＴ・ドローン・ロボティスクへの活用事例を聞きながら、ＡＩ・ＩｏＴ等の最新技術について理解を深めた。また、電動モビリティシステム専門職大学の取組みについても知ることができた。

⑪　山形県立鶴岡工業高等学校

１　事業実績

ア．株式会社 MUSOU・代表取締役せきぐちあいみによるＶＲアートへの挑戦やアイデアの大切さやＶＲ活用の未来、高校生へのメッセージについて講演を実施：全校４６８名。

２　主な内容

ア．「VR が拡張する人類の未来」

・VR アートに挑戦したきっかけと活動体験

・VR 活用の現在と未来の活用（アイディアの大切さ）

・高校生へのメッセージ（挑戦を続けることの大切さ）

実演と体験を織り交ぜながら、情熱と熱いメッセージが伝わる研修となった。

⑫　山形県立加茂水産高等学校

１　事業実績

ア．庄内ドローンファクトリーによる大型の農業用ドローンの見学や物流用ドローンの運航について講義を実施、実際に機体の操縦を行った。AI 搭載のドローンでは対象となるものを追従したり、間隔を離しながらトラッキングしたりと、技術の進歩を体験：１，２年生３７名。

２　主な内容

ア．大型の農業用ドローンの見学や物流用ドローンの運航について講義していただいたのち、実際に機体の操縦を教えていただいた。AI搭載のドローンでは対象となるものを追従したり、間隔を離しながらトラッキングしたりと、技術の進歩を体験した。海洋環境の授業と関連させながら、今後の水産業においてドローンの技術はどのように応用できるか考えさせる課題を出し、学習の深化を図りたい。

⑬　山形県立庄内農業高等学校

１　事業実績

ア．株式会社まいすたぁと株式会社インフィニファームによる稲作を中心とした世界と日本農業の現状という内容でドローン活用や衛星システム活用による葉色診断からの可変施肥等のスマート農業の内容を講話や果樹農家の課題として、手作業が未だに中心であるが、収穫及び農薬散布のロボット化が進められている現状とその課題について講話を実施、その後対話形式で情報交換を行った。：２年生３９名。

２　主な内容

ア．地元農業法人との研修・相談会を実施。株式会社まいすたぁの齋藤一志氏からは稲作を中心とした世界と日本農業の現状という内容でドローン活用や衛星システム活用による葉色診断からの可変施肥等のスマート農業の内容を講話して頂いた。株式会社インフィニファームの齋藤司氏からは果樹農家の課題として、手作業が未だに中心であるが、収穫及び農薬散布のロボット化が進められている現状とその課題について講話して頂いた。その後、農業系の進路希望生徒 10 名と対話形式で情報交換を行った。生徒も積極的に質問するなど中身の濃い企画となった。

⑭　山形県立酒田光陵高等学校

１　事業実績

ア．株式会社長浜建設、株式会社丸高、遠田建設株式会社、五十嵐工業株式会社のグループワーク形式による建設業の魅力・技術・就業に関する講和・意見交換と測量研修を実施：２年生２５名。

イ．通研電気工業株式会社による各産業分野で「ＩｏＴ」「ＡＩ」と呼ばれる技術がそれぞれ注目されており、それらの技術の意味付けや流行の背景などを解説し，実社会や事業（電力供給関連設備の製造・保守）における取組事例を紹介：１，２年生５９名。

ウ．国立研究開発法人産業技術総合研究所名誉リサーチャーによる「ロボティクスの挑戦：技術進化と社会変革の最前線」という講義を実施。ＡＩやディープラーニング、ロボットに必要な基礎技術、実用化されているロボット等を講義：工業科１～３年生計１８６名。

２　主な内容

ア．複数名の講師によりｸﾞﾙｰﾌﾟ制による学習を行い、建設業の魅力・技術・就業に関することについて、講話・意見交換・技術研修(測量)等を実施した。

イ．「ＩｏＴ・ＡＩとは何か？ どんなことができるのか？」という演題で実施。近年，各産業分野で「ＩｏＴ」「ＡＩ」と呼ばれる技術がそれぞれ注目されている。本講座では，それらの技術の意味付けや流行の背景などを解説し，実社会や当社事業（電力供給関連設備の製造・保守）における取組事例を紹介した。

ウ．演題「ロボティクスの挑戦：技術進化と社会変革の最前線」で下記の講義を行った。

①自動化の目的とその将来について。

②人工知能について、ディープラーニングとは何か。

③ロボットに必要な基本的な技術について。

④現在実用化されている様々な分野で活躍するロボットの分類と、それの具体的な紹介・説明。

（３）次世代分野産業現場実習（授業）及び長期インターンシップ

〇企業・大学等産業現場において、各科目の実習、授業等を実施（学校へ講師を招聘）
〇地域企業等産業現場において、概ね２週間程度の長期インターンシップを実施

・農業分野：東北農林専門職大学や附属農林大学校、山形大学農学部、食品製造工場での体験講義、実習等

・工業分野：製品の製造から検査、測定、改善会議までの企業活動の体験、イベントの企画・運営・店舗業務を一体的に体験実習等

・商業分野：道の駅、地元企業での実習による地域魅力体験学習等

①　山形県立山形工業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：５回

全５学科による国土交通省東北地方整備局河川工事現場実習や会津大学体験見学、新築工事現場見学実習等：１年生３２名、４０名、３６名、４０名、３５名計１８３名。

イ．長期インターンシップ：４名

地元電気設備会社や自動車販売会社、県総合支庁、設計事務所。

２　主な内容

ア．会社概要説明、製品ができるまでの流れに関する説明、建築素材加工工場の見学

資材の受け入れ、加工、検査、出荷までの現場を見学。また、内表の家新築工事木造平屋建住宅見学、蔵王成沢利用間伐工事見学。また大学見学や発電所の見学。会社見学や築堤工事に伴う農業用サイフォンの工事現場見学を行った。

イ．

○トヨタカローラ山形株式会社

・車検、定期点検の流れ　・車検の工程（検査順序）・空気圧点検、タイヤの溝検査
・タイヤ空気圧の調整　・自動車のコーティング方法　・車検終了後の自動車の清掃
・安全作業について　・猛暑の中での作業に対する暑さ対策について

○有限会社石山設計事務所

・資料収集や建物・敷地のゾーニング

○村山総合支庁

・河川砂防課、管理課、道路課、建設総務課における山形老野森線、みはらしの丘、蔵王半郷沢、馬見ヶ崎川、蔵王ダム見学会同行、山形山寺線（高瀬川橋）、楢下宿石橋群の見学や会議資料準備等

○城北電気工業株式会社

・会社説明、蛍光灯交換、LED 取り付け、電源設置、ウオルボックス取り付け、配線板取り付け、電柱点検、電力潮流メータ取り外し等実施。社員の方との情報交換会

②　山形県立上山明新館高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回

　　東北専門職大学・東北専門職大学附属農林大学校授業体験等：２年生３１名。

イ．長期インターンシップ：３名

　　地元農園２件と地元洋菓子店１件。

２　主な内容

ア．東北専門職大学・東北専門職大学附属農林大学校を訪問し、授業の体験を行った後、学校を見学させていただいた。大学や農林大学校での授業体験を通して、高等教育で学ぶことの重要性を知ることができた。

イ．地元農園２件では、1.播種 2.収穫３ .ハーブティー作り 4.トレーなどの掃除 5.魚のえさやりを行った。研修を通して、「女性が農業で働きやすい環境を作り、雇用を生み出していた。その姿を見て将来に生かそうと感じた。」「経験したことを活かしていけるように、日々の生活に取り入れていきたいし、どこの就職先でも活用できるように忘れず心に止めておきたい。」という感想が得られた。

　地元洋菓子店 Ora da cacao & chou では、シュークリームの製造、商品の包装、接客、新店舗の見学と店舗経営についての説明といった研修を行った。「研修を通して、お客様を第１に考え、そのために仕事は言われたことだけをするのではなく自分から積極的に見つけて行動することが大切だと分かった。商品を売り続ける難しさなど学べた。清潔・笑顔・挨拶を身につけることができたと思う。将来に活かしていきたい。」といった感想が得られた。

③　山形県立山辺高等学校

１　事業実績

ア．魚匠ダイニング沖海月と渚の交番カモンマーレにおける庄内で獲れた地物鮮魚の料理実習。講話と漁協見学と体験:1年生27名。

２　主な内容

ア．１ 庄内で獲れた地物鮮魚を独自の感性で料理し、提供しているところの話を聞きながら実習する。
　　２「森里川海」講話。
　　３「魚の話」講話。
　　４「サクラマス水産県産研究所職員」による講話と漁協見学と体験。

④　山形県立寒河江工業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回（３か所）
　　株式会社山本製作所、山形イハラ株式会社、株式会社チノーの３社で各社工場見学や製品生産工程や工場の特色学習や実際の機材に触れる体験と講義：２年生２２名。

イ．長期インターンシップ：２名参加
　　地元機械加工等製造業２件。

２　主な内容

ア．各社の工場見学を行い、製品の生産工程や工場の特色を学び、実際に使用している機材に触れることで、今後の進路活動に生かせる学びとなった。

イ．株式会社ワイムと株式会社小堀製作所山形工場で行った。工場見学、工場長講話、設計研修、シーケンサーによる制御回路実習、図面修正作業、Ｃｕｂインターロックの仕組み、機械加工、スリワリ加工、二次加工、マシニング加工、旋盤加工、バリ取り加工の説明と作業、ゲージ検査の説明と作業を行った。研修をとおして、「５日間を通して、製品検査の大切さと効率の良い作業をするための努力などを知ることができた。社員の方々との作業を通して、自分に今足りないものが見つけられた。」といった感想が得られた。

⑤　山形県立村山産業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：５回

・東北文教大学、でん六、古窯の大学講義や施設見学、工場説明や見学：１年生２３名。
・山形県工業技術センター・山形県立産業技術短期大学の講義・見学：１年生３０名。
・株式会社アスクにおける酒米成分分析、品質評価実習：２年生５名。
・東北農林専門職大学、附属農林大学校の学校見学や進路学習：２年生１８名。
・東北農林専門職大学、附属農林大学校、株式会社南東北クボタ、イノチオプラントケ株式会社の学校見学や企業見学、進路学習：２年生２２名。

イ．長期インターンシップ：７名参加

地元機械加工等製造業２件、天童市物産館１件、農家等４件。

２　主な内容

ア．大学の授業体験や見学、企業等の工場見学を実施した。株式会社アスクで学校栽培の酒米成分分析や科学的観点からの品質評価実習を行った。また株式会社南東北クボタ、イノチオプラントケ株式会社では、学校見学や企業見学、進路学習を行った。

イ．地元機械加工等製造業２件では、バルブ組立、３ＤＣＡＤ体験、溶接、ＰＧ作成、インデックスライン加工等を体験した。「「報告」「連絡」「相談」が徹底されているところから、個人として行う内容でも企業という団体で動いている実感を得た。」「メモをとりつつ、話をきくことの大切さや、仕事に対する姿勢について学んだ。」といった感想があった。天童市物産館１件では、施設見学、パンフレット補充、レンタルサイクルのタイヤの空気詰め、クリアファイルの袋詰め、夏祭り準備業務、ふるさと納税返礼品の確認、道の駅駐車場清掃、観光客対応業務を行った。農家等４件ではコンバインの操作やメンテナンス、稲作栽培の講義、出荷用箱作り、バラの選定、花がら、つぼみ摘み、芽かき、播種、キクの調製、お盆用の花束作り・納品等を行った。「私が今まで、花の仕事に持っていたイメージはもっと華やかな仕事だと思っていたが、地味な作業が多いとわかった。花の本数も多く、時間がかかる仕事が多かったが、楽しく作業することができた。このインターンシップを通して花の仕事に対する意欲が高まった」といった感想が得られた。

⑥　山形県立新庄南高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回

　　米沢市役所、道の駅米沢、三井屋工業株式会社において産業現場や企業の実態を見学・実習：２・３年生３６名。

イ．長期インターンシップ：１名参加

　　新庄商工会議所１件。中学校キャリア体験学習の準備、新庄最上地域観光プロジェクト委員会でのフィールドワークの補助等の体験。

２　主な内容

ア．米沢市役所、道の駅米沢、三井屋工業株式会社において産業現場や企業の実態を見学・実習し、産業現場や企業を取り巻く市場の知識・技能・技術を身につけ、地域社会貢献に活かすための意欲と態度を育成した。

イ．新庄商工会議所では、中学校キャリア体験学習の準備、市指定ごみ袋販売補助、新庄最上地域観光プロジェクト委員会でのフィールドワーク、最上大産業まつり全体運営の補助等の体験を行った。インターンシップをとおして、「様々な方とお会いする中で改めて、ビジネスマナーの重要性を理解できた。」「人口が著しく減少している地方の強みをどう活かすか、どのようにして交流人口を増やしていくのかを考えるきっかけとなった。」「「最上大産業まつり」の運営をお手伝いし、様々な方々が新庄・最上地方の素晴らしいところをＰＲしようと熱心に活動している姿に、改めて新庄・最上地方のすばらしさを認識することができた。」といった感想が得られた。

⑦　山形県立新庄神室産業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：３回

・山形航空電子株式会社：２年生２８名。

・山形大学農学部、酒田米菓株式会社：１年生３８名。

・三井アウトレットパーク仙台港、キリンビール仙台工場における産業現場体験実施：１年生５名。

イ．長期インターンシップ：７名参加

酪農、農家、農園、パン屋、モーター製造工場、建設会社での６件

２　主な内容

ア．

・山形航空電子株式会社における生産品や社会貢献活動、施設見学、技術理解や働くことの意義を実習形式で実施。

・山形大学農学部、酒田米菓株式会社におけるカリキュラムや研究内容講義、農場や諸施設見学、加工品製造工場での米菓製造体験実施。

・三井アウトレットパーク仙台港、キリンビール仙台工場における産業現場体験や企業を取り巻く市場の知識習得、地域社会貢献意欲と態度の醸成をねらい、施設見学や体験を実施。

イ．酪農、農家、農園、パン屋、モーター製造工場、建設会社の６件。酪農におけるボロだし、おがくず敷、餌やりや農家におけるニラ出荷作業、農園におけるトマト選定、葉かき、出　荷、モーター製造工場における製造工程体験、洗浄機製作、コイル計測、部品のピッキング作業、建設会社における施工管理や品質管理、安全管理体験を行った。インターンシップをとおして「意見をまとめ伝えるというコミュニケーション能力が大切になることも痛感した。」「学んだことは、お客さんの立場になって作業をすること。相手を考えながら作業を行うことで来た時に気持ちの良い店舗になり、食べやすく、手に取りたくなるような商品が出来上がっていくと思った。」「一つ一つの作業を終わすには働く人との信頼が大事だということを今回教えていただきました。選別する人や葉かきをやる人がいるからトマトを収穫することが出来ます。逆に信頼関係がなければ作業を終わるのが遅くなり、ミスなども多くなります。」といった感想が得られた。

⑧　山形県立米沢工業高等学校

１　事業実績

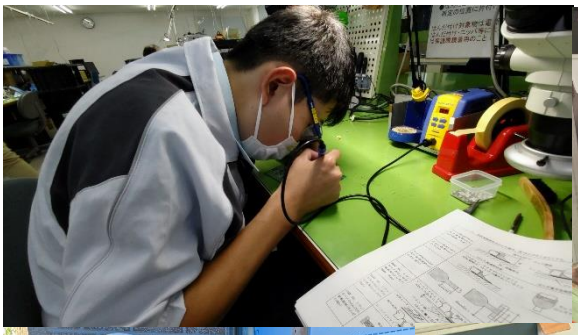
ア．産業現場実習：１回
　　株式会社ユアテック：２年生２３名。

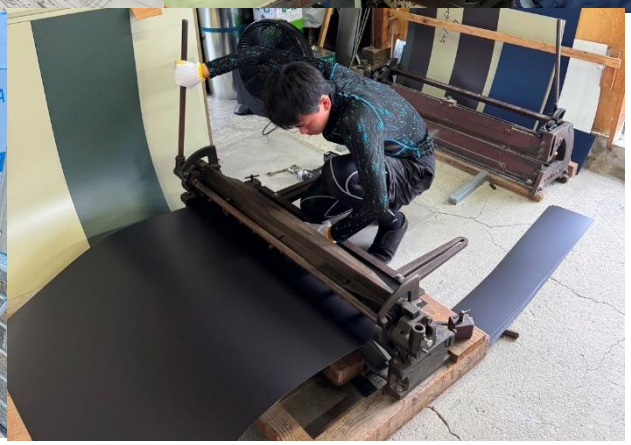
イ．長期インターンシップ：３名参加
　　電子基板製造工場、精密加工会社、建設会社３件。

２　主な内容

ア．株式会社ユアテックにおいて企業概要説明、電気工事実習、研修施設見学を実施。現場実習を行った。学校で身に着けた知識や技術を、プロの目で確認していただく良い機会となった。

イ．電子基板製造工場、精密加工会社、建設会社３件。電子基板製造工場における基盤製作、マイコンプログラミング、三級技能検定試験課題作成体験、精密加工会社における旋盤作業や研磨作業、NC 旋盤の見学、建設会社における足場組立・片付け、廃棄物回収、板金加工等を体験。インターンシップをとおして「業界について知り、はんだ付けの楽しさなどの様々知ることができ、とても貴重な時間を過ごすことができた。」「皆さん優しく、集中してインターンシップに取り組むことができた。金属加工や旋盤について理解し、技能を習得することができた。学校では扱うことのできない機械にも触れることができ、とても充実した９日間だった。これから実習で旋盤を扱うので生かしていきたい。」といった感想が得られた。





⑨　山形県立米沢商業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回

　　１７社を５班に分けて実習等実施：２年生７８名。

イ．長期インターンシップ：２名参加

　　地元スーパー１件。

２　主な内容

ア．株式会社相田商会（講話、廃プラスチックリサイクル作業工程見学）、太田建設株式会社（講話、重機の運転席に乗車し安全確認等）、ＡＧＣディスプレイグラス米沢株式会社（講話、ＶＲによるガラス基板製造の安全確認作業等）、株式会社オカムラ高畠事業所（講話、作業現場見学等）、たかはたファーム（講話、作業現場見学等、製品の試食体験）、インテグリス・ジャパン株式会社（講話、作業現場見学等）、株式会社デンソー山形（講話、作業現場見学等）、株式会社ナカノアパレル（講話、作業現場見学およびオリジナルＴシャツ作成）、(有)ウッド・メーク（講話、閉校記念品制作現場見学および体験）、サクサテクノ株式会社（講話、作業現場見学）、株式会社丸定（講話、現場見学および廃段ボールで製品制作）、精英堂印刷（講話、水なし印刷技術現場確認）、ネクスト環境コンサルタント株式会社（講話、水質実験調査）、株式会社ニューテックシンセイ（講話、木ロック制作体験）、株式会社米沢食肉公社（講話、作業現場見学、米沢牛調理体験）、アルス株式会社（講話、作業現場見学）、フジクラ電装（講話、作業現場見学）の計１７社を５班に分けて実習等実施。

イ．地元スーパー１件。レジにおける袋詰め、商品管理業務、POP 制作、商品陳列、段ボール製作、ファストフードコートの開店準備、清掃、総菜盛り付け等を体験。「仕事をするということは、従業員の皆様とのコミュニケーションが大切であることを学んだ。働くことの大切さを知ることができた１０日間であった。」「どんな仕事をしても大変だったが、仕事のやりがいを感じ、従業員の皆様から教えていただき仕事に専念することができたことに感謝している。」といった感想が得られた。

⑩　山形県立置賜農業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：２回

有限会社熊谷園芸：１年生２７名。

有限会社舟形マッシュルーム：１年生３１名。

イ．長期インターンシップ：６名参加

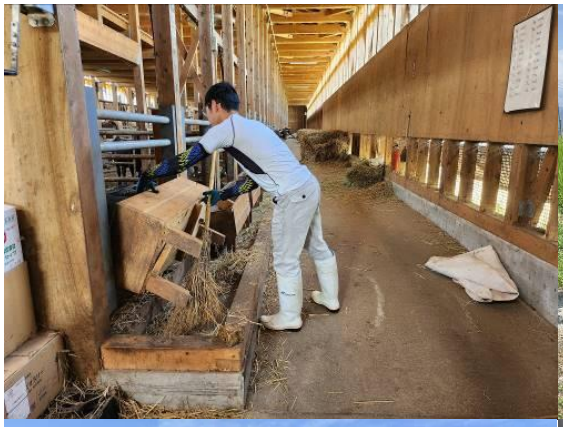
地元牧場、酪農、果樹園、農業法人、農家、農機具製造メーカー６件。

２　主な内容

ア．有限会社熊谷園芸において農業の魅力・楽しさ講話、生産現場体験や出荷調整場の見学を実施。

有限会社舟形マッシュルームにおいて農業の魅力・楽しさ講話、生産現場体験や出荷調整場の見学を実施。

イ．地元牧場、酪農、果樹園、農業法人、農家、農機具製造メーカー６件。牛の餌やり、わら補給、清掃、えさの運搬、水田の草刈り、スイカの収穫や化粧箱組立、ぶどうの袋掛け、電柵設置やコンバインメンテナンス、エンジンオイル交換やトラクター搬送等を体験。インターンシップをとおして「毎日、牛の状態をよく観察し大切に扱うことを学んだ。」「炎天下での農作業の大変さを改めて実感しつつ、こうして作られた農作物のありがたみを感じることができた。」「特にコミュニケーションと、自ら考えて積極的に行動することの大切さを学んだ。」「返事やあいさつを元気に行うことや、上の人への言葉遣いなど社会人として必要なことを学んだ。」といった感想が得られた。



⑪　山形県立長井工業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回

　　朝日金属工業株式会社・株式会社日栄製作所・株式会社トップパーツ：２年生１８名。

イ．長期インターンシップ：３名参加

　　イベント企画運営会社、電子部品製造会社、印刷会社３件。

２　主な内容

ア．朝日金属工業株式会社・株式会社日栄製作所・株式会社トップパーツにおける工場見学や地元企業の魅力について講話を実施：２年生１８名。

イ．イベント企画運営会社、電子部品製造会社、印刷会社３件。イベント企画運営会社におけるイベント企画、運営、機材の管理、電子部品製造会社におけるゲーム機部品製造、パソコンデータの読み取り、スマートフォンの修理、印刷会社におけるデザインや印刷業務、名刺作成、製本作成、T シャツ印刷を体験。インターンシップをとおして「コミュニケーションは、本当に大事だと感じた。日々の生活などで伸ばしていかなければならないと強く思った。このインターンシップを通じて、より一層加賀マイクロソリューション株式会社に入りたいという思いが強まった。」「シルクスクリーンのデザインを考えるときは、深く考えすぎず、まず身近なものからだんだんと広げていくことが大切だと学んだ。ＨＰ作成ではわからないところを人に聞くことも大切だけど、自分で調べて解決すると、より理解しやすいことを学んだ。今後の生活でもわからないことをそのままにせず、なんでそうなるのかを理解することを心がけていきたい。」「周りとの連携をとるためには、コミュニケーション能力が重要なこと。意見を自分の中で留めるのではなく、しっかりと外に出して自己表現をすることの大切さ。朝から大きな声で挨拶をするとモチベーションが出てくること。」といった感想が得られた。

⑫　山形県立鶴岡工業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回

　　山形大学工学部：１～３年生６名。

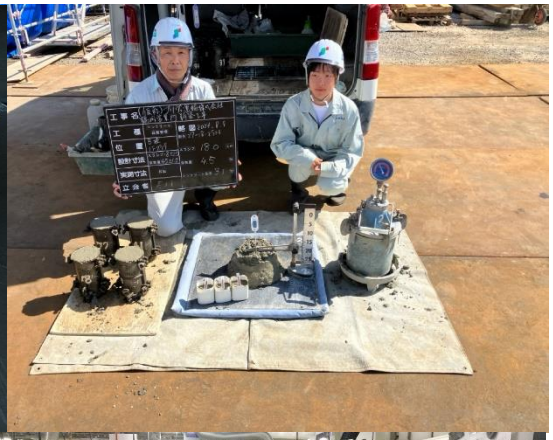
イ．長期インターンシップ：５名参加

　　モーター製造会社、情報通信会社、建設会社３件。

２　主な内容

ア．山形大学工学部における「ひらめき☆ときめきサイエンス」「やわらか材料×AI×4D プリンティングが加速させる未来のものづくり体験」を実施。

イ．モーター製造会社、情報通信会社、建設会社３件。モーター製造会社におけるギアの歯端面取り加工、シャフト加工、情報通信会社における LAN ケーブル製作、プログラミング、建設会社におけるレベル測量、配筋検査、コンクリート試験、玄関部分の墨だし、ドローン操作等を体験。インターンシップをとおして「工事をスムーズに進めるためにはコミュニケーション能力は大切だと知ることができた。」「午前中は大きなミスが多く昨日学んだことを活かせなかった。そのため、午後の作業では一つ一つの作業をしっかりと確認しながら行い、ミスを減らすことができた。だが、昨日には学べていたことだったため、学んだことを活かすのが遅いと感じたと同時に、自分の短所も学ぶことができた。」「学校ではまだ使ったことのないC＃を使用したプログラミングだったので、わからないことも多く、難しいと感じた。今回のインターンシップで自分の力を伸ばすことができた。」といった感想が得られた。



⑬　山形県立加茂水産高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回
　　山形県水産振興協会三瀬栽培漁業センター：２年生８名。

イ．長期インターンシップ：２名参加
　　曳舟会社、食品製造販売会社２件。

２　主な内容

ア．山形県水産振興協会三瀬栽培漁業センターにおけるアユ、ヒラメ、アワビの親魚・母貝、稚魚・稚貝の管理手法として、対象生物の通常管理となる給餌、残餌処理業務を体験すると共に、年間を通した生物管理の流れを体験。

イ．曳舟会社、食品製造販売会社2件。曳舟会社における出入港前作業、船内巡視、船体整備作業、航海計器の取扱作業、操船補助作業、食品製造販売会社におけるラベルシール貼り、原材料加工作業、商品拭き等を体験。「次に何をするか考えて行動することや他の従業員と連携しての流れ作業などを通して、自主性と協調性を学んだ。」「出入港作業、船体整備作業においては、安全に対して、２重、３重の注意を払う必要があることを学んだ。」といった感想が得られた。

⑭　山形県立庄内農業高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：１回

・有限会社新庄東山焼と株式会社八鍬土建：４０名。

・東北電気保安協会：１，２年生計５９名。

・株式会社ＮＴＴ－ＭＥ：２年生３学科１１６名。

イ．長期インターンシップ：３名参加

・農家、農園、森林組合３件。

２　主な内容

ア．

・有限会社新庄東山焼と株式会社八鍬土建による粘土の手びねり陶芸制作実習、ワサビ栽培の見学・説明、わさび醤油作成実習。

・東北電気保安協会による電気のスマート保安やＡＩを活用した電気の安全点検、ＶＲを活用した模擬疑似体験を実施。

・株式会社ＮＴＴ－ＭＥによるＶＲ危険体感、フルハーネス体験、高所作業車乗車体験、光ファイバー融着体験、卒業生講話を実施。

イ．農家、農園、森林組合３件。農家における稲作の潅水作業、枝豆の収穫・選別・出荷作業、農園における桃の収穫・運搬作業、森林組合における現場見学、外周測量、皆伐測量の体験。インターンシップをとおして「言葉遣いやあいさつが改めて大切なことだということがわかった。そこで学んだコミュニケーション能力を進路活動で生かせるようにしていきたい。」「朝早くからの作業、午前中とはいえ暑い中の農作業となった。しかし、休憩の際に食べた桃は本当においしかった。改めて農業の厳しさや楽しさ、達成感を感じた。」「林業を見たことはあったが、その職を経験することは今回が初めてであった。林業は大変で、危険な仕事ということを実感した。今回のインターンシップで山には人の手が必要ということが分かったし山にもたくさん課題があったことを学んだ。一般の方々に、山にもっと関心を持ってもらいたいと強く感じた。」「将来自分が稲作を経営する際に活用できる知識を学んだ。」といった感想が得られた。

⑮　山形県立酒田光陵高等学校

１　事業実績

ア．産業現場実習：３回

・株式会社プレステージ・インターナショナル：３年生３７名。

・東北電気保安協会：１，２年生計５９名。

・株式会社ＮＴＴ－ＭＥ：２年生３学科１１６名。

イ．長期インターンシップ：４名参加

農機具製造会社、電気設備会社、税理士事務所３件。

２　主な内容

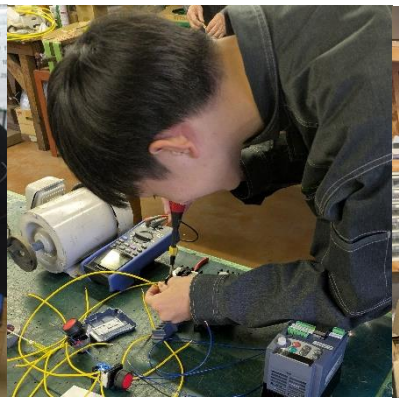
ア．

・株式会社プレステージ・インターナショナルによるビジネスマナー研修、情報セキュリティの重要性、ＣＳマインド向上研修の実施。

・東北電気保安協会による電気のスマート保安やＡＩを活用した電気の安全点検、ＶＲを活用した模擬疑似体験を実施。

・株式会社ＮＴＴ－ＭＥによるＶＲ危険体感、フルハーネス体験、高所作業車乗車体験、光ファイバー融着体験、卒業生講話を実施。

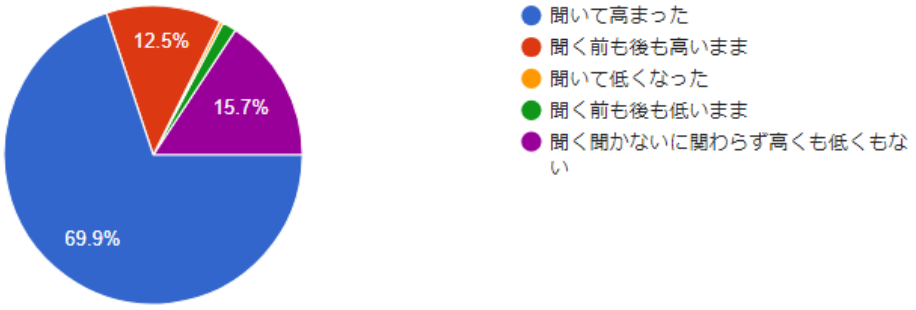
イ．農機具製造会社、電気設備会社、税理士事務所３件。農機具製造会社における入出金伝票や振替伝票作業、入金票のチェック、電気設備会社における配線作業や変電設備機器の見学、浄水場電気設備メンテナンスの見学、ＰＬＣとボタン配線作業、税理士事務所におけるデータ入力作業、会計業務の補助、税務・会計に関する基礎知識の学習を行った。インターンシップをとおして「浄水場の電気設備のメンテナンスの様子は学校ではなかなか見ることができない規模のものだったので良い経験になった。」「税理士の仕事が実際にどういったものかを学べた。」「社会人との接点が生まれ、社会の一員として働くことの重要性を実感した。この経験は、将来の進路選択や就職活動にも役立った。」「配線作業の体験をさせてもらい、実習でやってきたような内容と重なるところが多かったので、実習で技術を身につけておくことが大切だと改めて感じた。」といった感想が得られた。



（４）次世代産業人材育成研修プログラム　生徒評価結果

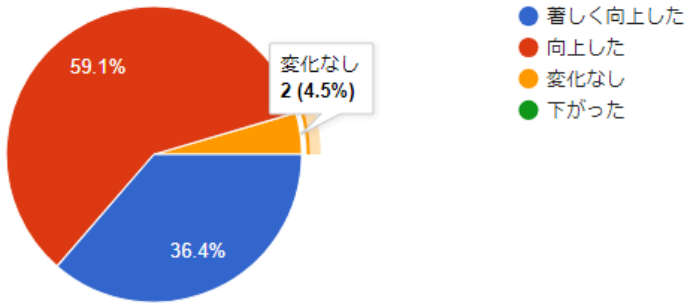
①　AI・IoT・ドローン・ロボティクスへの興味・関心はどうなりましたか？

1,266 件の回答



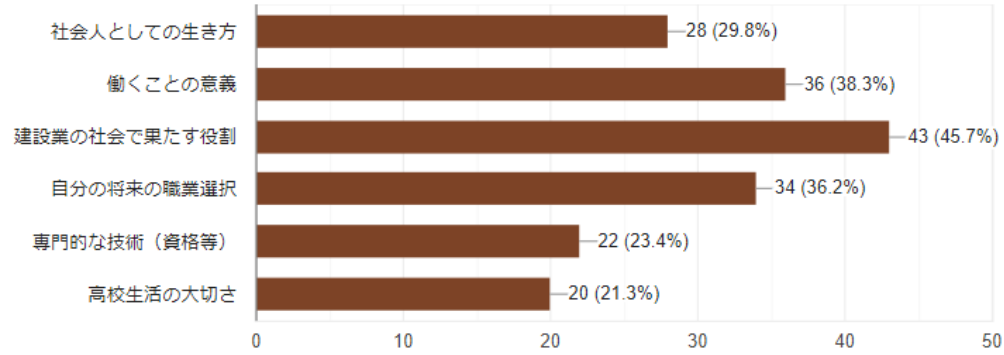
②　長期インターンシップでコミュニケーション能力や協調性は向上したと思いますか？

44 件の回答



③　専門分野（土木・建設）の講義・実習を受けて学んだことを 2 つ挙げてください。

94 件の回答



○評価分析

・次世代分野（AI・IoT・ドローン・ロボティクス）研修
生徒事後評価で「興味・関心」、「役割」、「必要性」に関して約 70%が「聞いて高まった」に変容した。

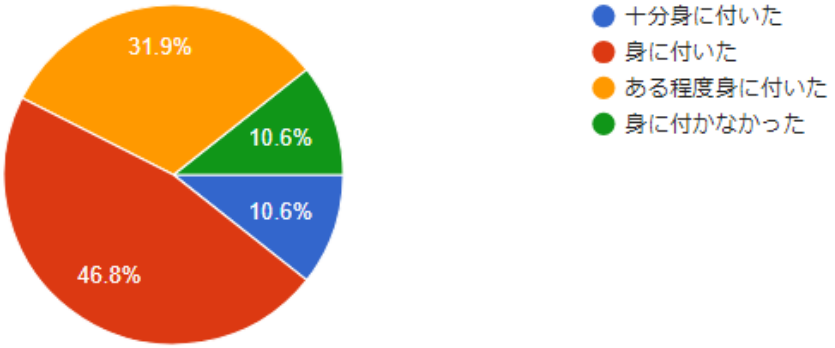
・産業現場実習
「興味・関心」「自学科の社会での役割の理解」に関して「実習をとおして高まった」と回答し、実習により 70～80%が興味・関心を高めることができた。

・長期インターンシップ
「キャリア設計に役立ったか」、「実践的な技能が身についたか」、「コミュニケーション能力や協調性が身についたか」、「社会人としてのルールが身についたか」でほぼ 100%が身に付いた、高まったと回答した。

（５）次世代産業人材育成研修プログラム　産業界評価結果（３月末現在）

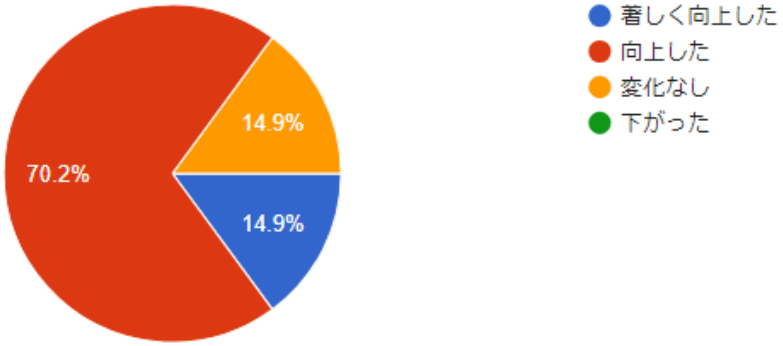
①　実習の前後で生徒は実践力ある高度な技術は身につけることはできましたか？

47 件の回答



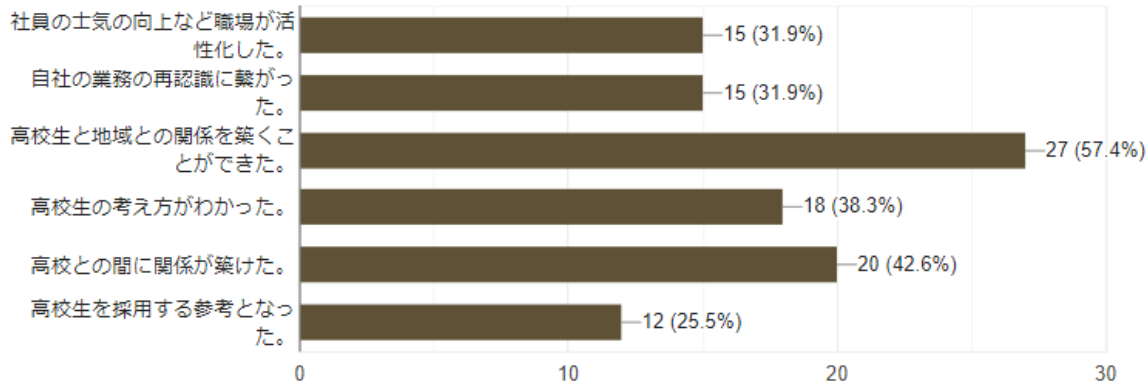
②　実習の前後で生徒のコミュニケーション能力や協調性に向上が見られましたか？

47 件の回答



③　本事業への参加により御社にとってどのような利点がありましたか？

47 件の回答



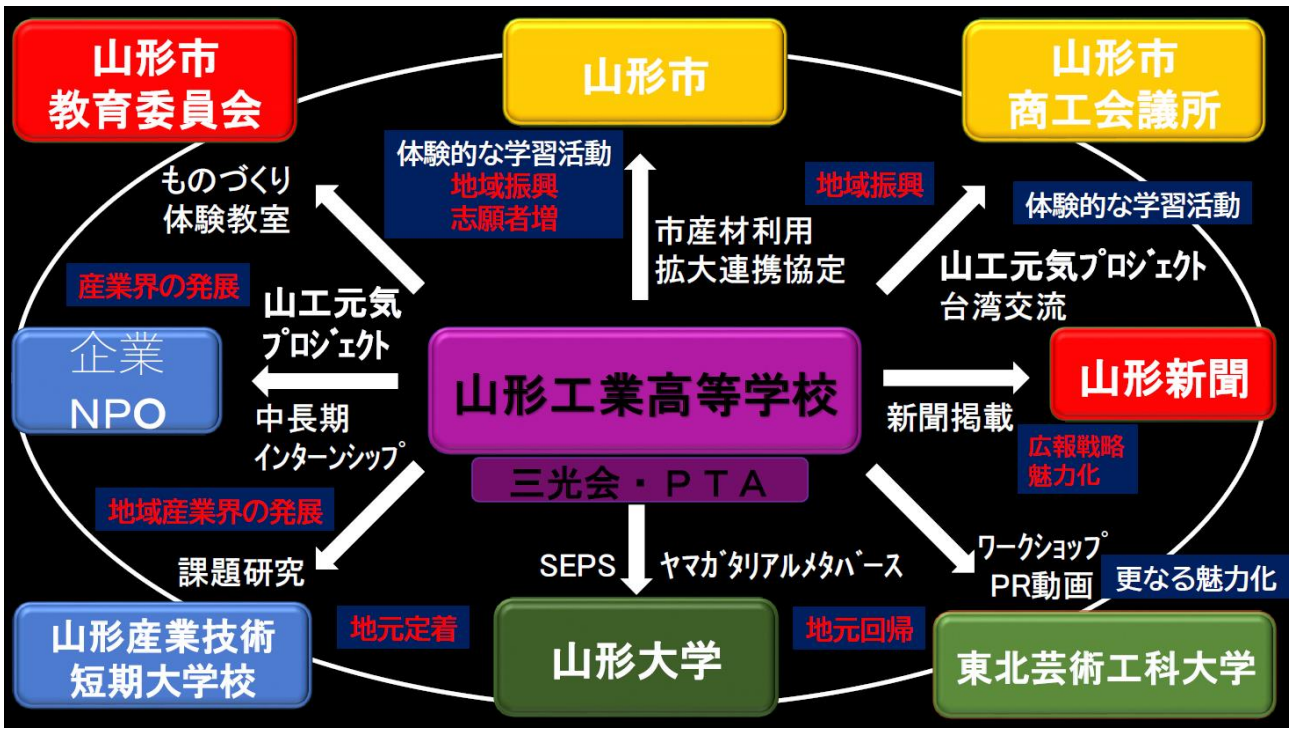
○評価分析

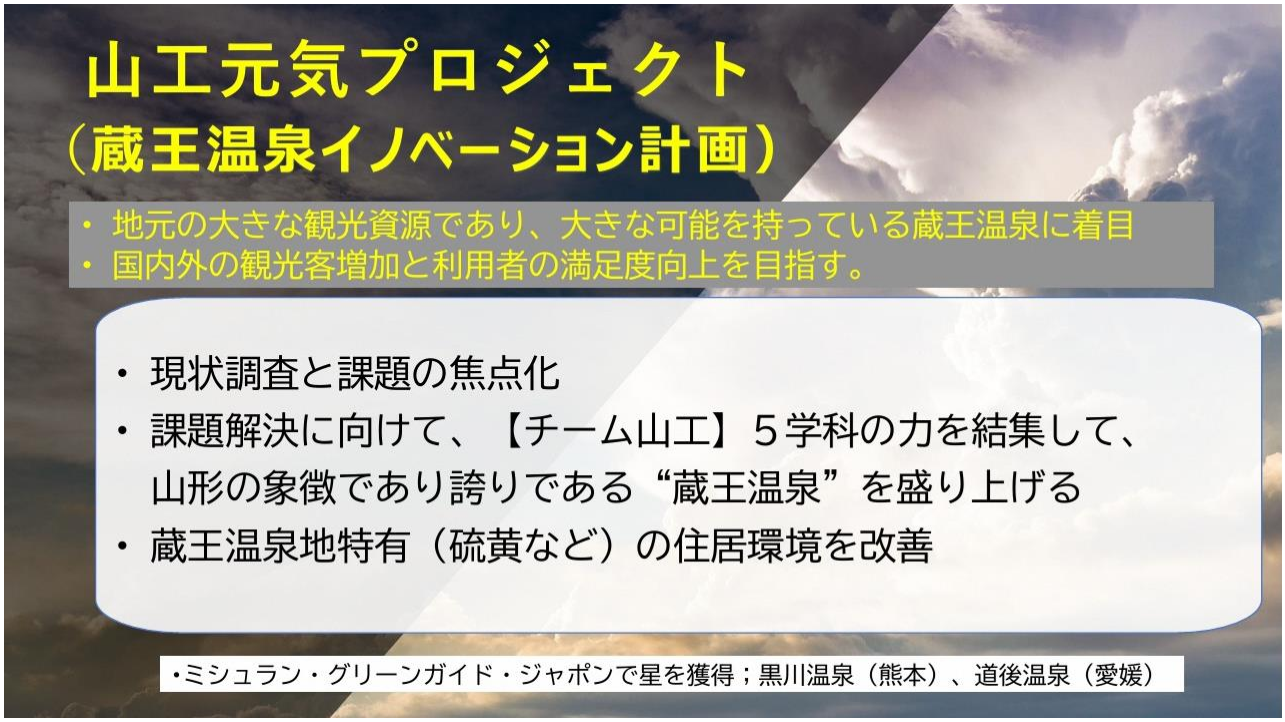
・「実践的な技能が身についたか」、「コミュニケーション能力や協調性が身についたか」、「社会人としてのルールが身についたか」で約９０％が身についたと回答。
・事業所側のメリットとして、「高校や高校生と関係が構築できること」や「高校生の考え方が分かった」が上位を占めた。
・事業所側の負担に感じていることとして、「実習指導者の確保」「実習プログラムの準備」との回答が上位を占めた。割合は２割程度であった。
　一方、「負担はない」との回答も３割強であった。

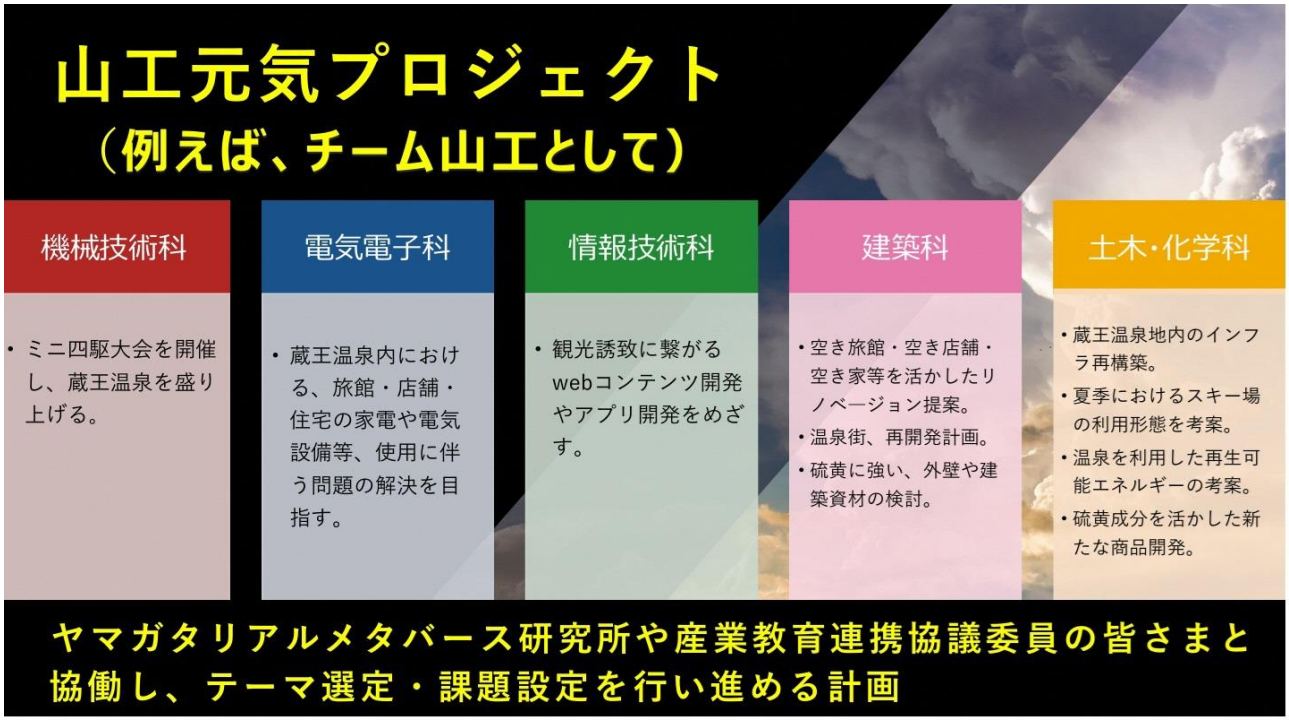
５　各学校における産業教育連携協議会の主な取組み例

１　県立山形工業高等学校

（１）産業教育連携協議会の取組み







（２）県立山形工業高等学校　産業教育連携協議会　委員

	氏名	所属・役職	（役割）
1	片桐　道徳	山形市商工観光部産業政策課 課長	
2	横山　尚久	山形市教育委員会次長（兼）学校教育課長	
3	橋本　善彦	山形商工会議所理事（兼）事務局長（兼）総務企画部長	
4	吉村　幸樹	エムテックスマツムラ株式会社天童事業所取締役	
5	土屋　浩	株式会社ハイテックシステム代表取締役	
6	石山　徳昭	有限会社石山設計事務所 代表取締役	
7	早坂　紘史	株式会社ザオー測量設計 代表取締役	
8	武田　嘉文	山形新聞社広告局ビジネス開発戦略部（兼）DX 推進部部長	
9	栗山　恭直	山形大学理学部理学科 教授	会長
10	奥山　正	山形県立産業技術短期大学校メカトロニクス科教授	副会長
11	吉田　朗	東北芸術工科大学基盤教育研究センター長・教授	
12	髙橋　良治	山形工業高等学校長	
13	奥出　俊一	山形工業高等学校三光会副会長	監事
14	五十嵐直哉	山形工業高等学校 PTA 会長	監事

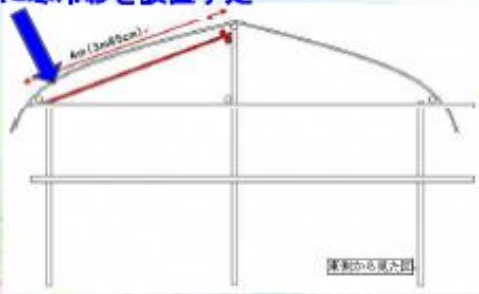
２　県立村山産業高等学校

（１）産業教育連携協議会の取組み

ア　農・工連携　カーボンニュートラルチャレンジ

光フューチャープロジェクト2024

この部分に寒冷紗を設置予定



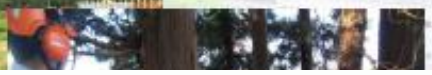
①今年度の取り組み内容

- 手作り太陽電池パネルの連結
- シート巻き上げのモーターとの接続
- コンピュータによる圃地状態の把握と記録の収集
- 雨よけハウスへの巻き取り用パイプの設置
- 企業から生徒に対する講義をいただく
- 農工連携しての協働・研究

②支出計画

・連結コネクタ	約10万円
・接続ケーブル類	約 5万円
・蓄電用バッテリ	約10万円
・電動巻上げ用資材セット	約30万円

イ　スマート農林業チャレンジ



①今年度の取り組み内容

- 農薬・肥料散布やマルチスペクトル解析を活用した農作物や森林の生育診断に関する実習を実施する。
- 高等学校DX事業との連携を行う。

②支出計画

- ドローンパーツ　約3万円

エ　地元地域PR活動・村山産業高校PR活動に関する地域連携

①今年度の取り組み内容

- 本校創立10周年記念式典への取組みについて、他学科や地域企業と連携し、取り組む。
- 3年課題研究、商品開発と流通、観光ビジネス等の授業を中心に地域連携地域をフィールドにした取組みを実施

②支出計画

- 村産10周年記念シール印刷　約 10万円
- 地域・学校PRのための費用　約　4万円

（２）県立村山産業高等学校　産業教育連携協議会　委員

ＮＯ	氏名	所属・役職	（役割）
1	鏡　　修	県工業技術センター所長	
2	石山　久悦	県村山総合支庁北村山農業技術普及課 普及推進主幹兼課長	
3	阿部　典子	村山市農林課長	
4	軽部　真也	村山市商工観光課長	
5	東海林　浩司	東根市経済部長	
6	三浦　康彦	JA みちのく村山代表理事組合長	副会長
7	松浦　洋二	JA さくらんぼひがしね代表理事組合長	
8	髙橋　辰雄	光洋印刷代表取締役社長	副会長 （村山市商工会会長）
9	武田　　昇	(有)武田鮮魚店代表取締役	副会長 （東根市商工会会長）
10	柴崎　雅典	北郡信用組合常務理事	監事
11	松岡　茂和	株式会社六歌仙代表取締役社長	
12	佐藤　修司	株式会社三和技術コンサルタント代表取締役	
13	豊岡　　司	（株）日立建機カミーノ代表取締役社長	（東根市企業連絡協議会会長）
14	吉田　和宏	(株)共栄メカ代表取締役会長	（村山市ものづくり産業振興会副会長）
15	半澤　和仁	東北電化工業株式会社人事労務部長	
16	武内　賢二	ソーラーワールド株式会社代表取締役	
17	森　里史	(有)あぶらや代表取締役	（東根市商工会商業部会長）
18	矢口　匡彦	(有)矢口ソルテール代表取締役社長	監事
19	鈴木　祐一郎	株式会社ローカルブライト代表取締役 CEO	
20	齋藤　伸治	株式会社 Otias 代表取締役社長	会長（村山産業高校産業教育協力会会長）
21	坂井　孝朗	村山産業高校　校長	

３　県立置賜農業高等学校

（１）産業教育連携協議会の取組み

共同研究　1

米沢牛飼育農家と連携した食品残差を活用したTMR生産と飼育コスト削減プロジェクト

共同研究　3

農業廃棄物を活用したアップサイクルプロジェクト
～規格外の野菜や果物に付加価値を付与する創造的再利用の研究～

本校の魅力発信

小学生とのふれあい動物園

児童との園芸交流活動
長井市立致芳小学校

教員視察研修 4

先進農業高校視察研修（1/25～1/26）

岩手県立水沢農業高校、宮城県加美農業高校、宮城県小牛田農林高校

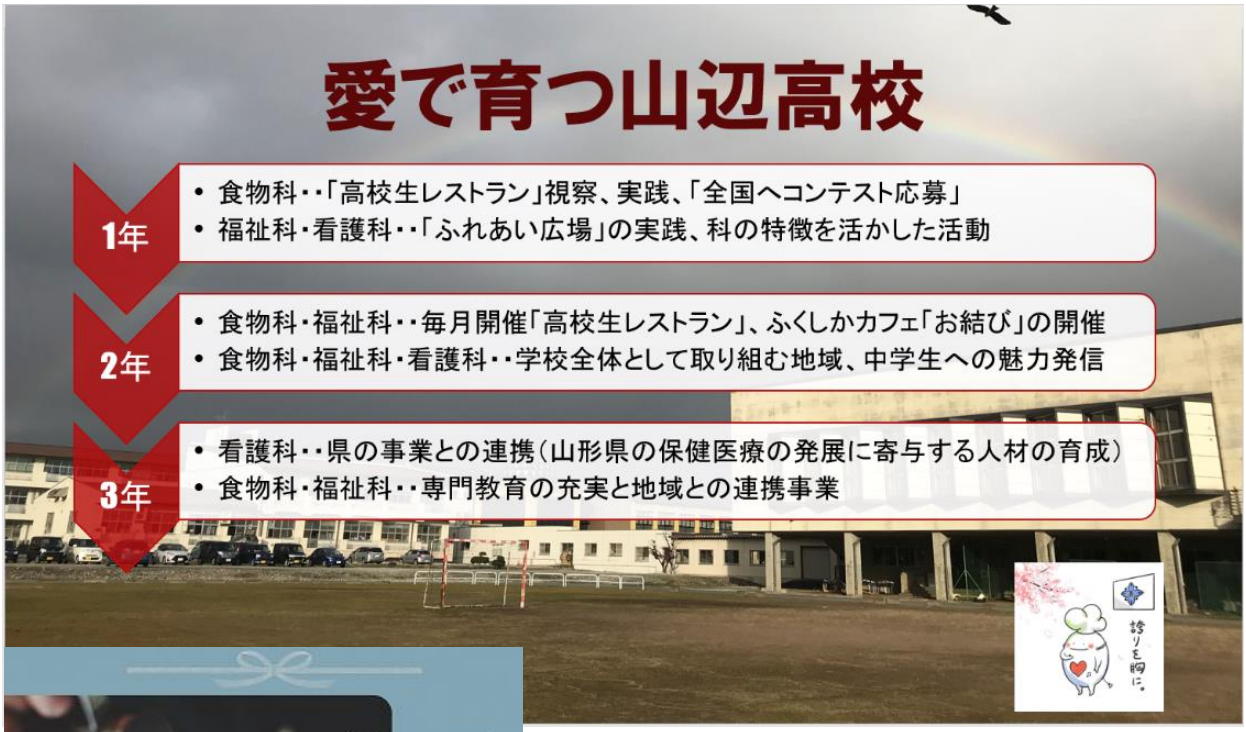
（２）県立置賜農業高等学校　産業教育連携協議会　委員

ＮＯ	氏名	所属・役職	（役割）
1	鈴木　孝之	置賜農業高校体育文化後援会長	会長
2	井上　俊幸	有限会社井上園芸代表取締役 置賜地域農業経営者協議会長	副会長
3	猪野　大輔	農業	
4	江本　牧子	まっきーガーデン代表	
5	遠藤　寛壽	株式会社遠藤畜産　取締役	
6	奥野　貴士	山形大学理学部　教授	
7	片山　祥平	会社員	監事
8	紺野　　健	川西町立小松小学校　校長	
9	髙橋　哲史	置賜総合支庁農業技術普及課 経営企画主幹	
10	高橋　由和	NPO 法人きらりよしじま ネットワーク事務局長	
11	千葉　陽平	チバサンファーム合同会社代表 道の駅米沢　農産加工施設責任者	
12	横山　亜紀	株式会社かわにし森のマルシェ 取締役マネージャー	
13	平田　忠宏	置賜農業高校　校長	

」

４　県立山辺高等学校

（１）産業教育連携協議会の取組み



５　県立新庄神室産業高等学校

（１）産業教育連携協議会の取組み

（２）学校ＰＲ活動の例

６　県立加茂水産高等学校

（１）学校間連携の取組み（加茂水産高校と山辺高校のコラボ）

（２）地域・関係機関（渚の交番カモンマーレ）との連携による商品開発

６　各学校における産業教育連携協議会事業の実績

１　山形県立山形工業高等学校

１　事業目的

⑴山形市のものづくり産業を担い、地域産業の発展と地域振興に寄与できる人材を育成。
⑵高校生が地元で就職する、または進学後に県内の企業を選ぶよう地元企業のＰＲに努める。
⑶本校の更なる特色化、魅力化による本校への志願者を増やす。
⑷地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動の充実

２　事業実績

⑴総会の実施
- 第１回総会（委員委嘱、会則、役員、予算(案)の協議、ｽｹｼﾞｭｰﾙ確認、意見交換）
- 第２回総会（事業報告、事業評価、決算の協議、次年度の計画）

⑵共同研究の実施（産技短連携の他、各科や研究会で行っている内容）
- 【機械技術】未来のものづくり人財育成～ミニ四駆教室～
- 【電気電子】10 年後を創造したものづくり、産技短との連携プログラミング出前授業、小学校との連携第２種電気工事士取得者による実践的活動、企業との連携海ごみ回収お手伝いロボットの製作、官庁との連携
- 【情報技術】鈴川小学校来校時におけるドローンプログラミング教室およびマイコンカー体験、中学生対象ウェブデザインプログラミング教室 SEPS１年４名、２年７名受講
- 【建築】加茂水族館 BIM モデルの制作
- 【土木･化学】

  土木技術コース：山形蔵王温泉地区のヒュッテヤレンの３D レーザー測量と３D 模型制作を試みた。また、上山明新館高校のサッカーコートの測量をザオー測量設計 早坂氏よりご指導をいただきながら実施した。

  化学技術コース：スライムマイスターとして地域の化学実験教室に参加した。また、技能検定（化学分析）の受験に際して、山形大学 SCITA センターの担当者と操作手順や薬品の取り扱いについて確認を行った。

⑶生徒の中長期インターンシップの実施（次世代地域産業人材育成事業 産業現場実習）
⑷中学生対象の学校説明会の充実
- 9/28(土)に中学生 438 名、保護者 268 名が参加し、学校や各科の説明会を行った。また、62 社の地域企業の協力を受け、山形新聞に 4 ページの全面広告を掲載した。

⑸各科ものづくり体験教室の開催
- 各学科で体験教室を実施し、小中学生延べ約 300 名の参加を頂いた。特にミニ四駆教室は各企業の協賛により、県立産業科学館や山形ビッグウイングなどで開催する事が出来た。

【機械技術】ミニ四駆教室の開催（10 回以上）【電気電子】電気電子科体験学習会
【情報技術】ウェブデザインに挑戦しよう　【建築】いす型植木鉢置き場を作ろう
【土木･科学】橋梁模型製作（土木）、定性分析と電子顕微鏡体験（化学）

⑹高大連携事業の実施
- 山形大学、東北芸術工科大学、県立産業技術短期大学校との共同研究、出前授業、ワークショップや卒業展の見学等

⑺情報発信
- 山形新聞への情報提供や、学校ホームページ、インスタグラムによる発信、訴求力の高い広報戦略を行った。

３　評価及び今後の取組み方針

地域企業や上級学校との連携により、地域振興に寄与できる人材を育成する事で、県内就職 53 名、山形大学５名、東北芸術工科大学 14 名、県立産業技術短期大学校 14 名に内定・合格する事が出来た。

本協議会を設置する事により、地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動のさらなる充実や、訴求力の高い広報戦略を図る事が出来たため、来年度も継続して行っていきたい。

２　山形県立上山明新館高等学校

１　事業目的

⑴上山市・産業界・大学等、地域や産業界等との連携・協働体制を強化し、生徒が地域課題を発見、解決したり、先端的な技術・技能を習得したりすることができる地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動を推進する。
⑵普通科、農業科、商業科を有する本校の特色を生かして各学科が連携協働できる教育課程を研究し、技術革新が急激に進展する各種産業界で活躍できる人材育成を推進する。
⑶少子高齢化や人口減少化が進む地域社会の持続、活性化に向けて、地元定着や県内回帰に向かおうとする志の育成や、入学者増加に資する魅力ＰＲのための方策を研究開発する。

２　事業実績

⑴食料生産科
①上山市内の農家や農業法人での農業インターンシップ、有限会社、農業関連学校での実習や視察、講話を実施した。（市農林課と連携して実施）
・東北専門職大学と東北専門職大学附属農林大学校における視察及び講義を実施。
・有限会社　やまがた園での生徒実習の受け入れ。・市内の農家２名による講演会を実施。
②上山市内の小学生を対象に行われている放課後児童教室において、花育教室を実施。
・放課後児童教室において花育教室を３回開催し、計４５名の児童に参加して頂いた。
・上山市総合子育てセンター「めんごりあ」にて花育教室を開催した、。
・上山市花卉生産組合の協力の元、フラワーフェスティバルでアレンジメント教室を開催。
③エディブルフラワー（食用花）の加工技術の研究、地元企業と共同し商品開発を行った。
⑵情報経営科
〇課題研究・観光ビジネスの授業で「上山市の観光ビジネスにおける探究活動」を実施
①新商品の開発･･･地域ビジネスにアプローチし、商品価値を評価するとともに人気スイーツの開発を行い、けやきの森まつり、上山市産業まつりで販売実習を行った。
②体験型イベントの開催･･･移住者目線から地域ビジネスにアプローチし、商品価値を評価するとともに空き家の利活用を目的とした体験型イベントの開発を考案した。
③地域ビジネスに貢献するために、観光に関する地域イベントに参加した。
・上山市観光ブランド推進課と協働し JR の観光イベント「駅からハイキング」を開催した。
・２月開催の民俗行事加勢鳥まつりの共催の計画
④地域の観光資源の利活用と効果的な発信･･･店舗や名所の紹介用観光マップで紹介
⑶情報分野の授業でハイスペックＰＣＬａｂの構築実習（県立産業技術短期大学校との連携）
⑷探究学習
①２学年による 52 グループの探究学習（成果発表会→振り返り＆レポート作成）の実施。
②校外コンテストへの挑戦、継続研究の実施。
③外部指導者（大学教員や学生）によるブラッシュアップ
④１学年 48 グループによるグループ探究学習（経過発表会・意見交換会）の実施。
⑤外部講師ガイダンス（探究テーマ・問いの設定、グループワーク・問の設定）の実施。
⑥産業教育連携協議会委員による指導者向けガイダンスの実施。
（データデザイン思考講座～生徒が収集したデータの分析とコツ～）
⑦先輩学年へのインタビュー、産業教育連携協議会委員へのインタビューの実施。
⑸広報活動等
①中学生対象の学校説明会等の拡充（学校公開日、部活動体験会、中学生１日体験入学、中学生個別相談会、さいごの学校説明会＆相談会等の実施）
②ＨＰ、ＳＮＳ等を活用した情報発信

３　評価及び今後の取組み方針

本事業への参加により、生徒が積極的に地域社会で活動する機会を創出することができている。生徒が活動しやすい環境を整備することで学校・教員と地域の連携をさらに強化したい。

また、外部指導者との協働活動によって生徒の視野が確実に広がりコミュニケーション力や発表力も向上しているため、校外発表に積極的に挑戦する姿勢を養成していきたい。そのため、研修会等を通じて指導者側も探究学習を生徒とともに楽しむ意識を向上させる。

食料生産科・情報経営科への推薦入学者志願者数が、41 名となった。過去 10 年で最高数となり、一定の効果があったものと考える（Ｒ６：25 名、Ｒ５：18 名）。本校への志願者掘り起こしを継続・拡充し、在校生のモチベーションを高め、本校の活性化に寄与することをねらいとして次年度も取り組みを進めていく。

３　山形県立山辺高等学校

１　事業目的

(1)県内唯一の家庭・看護の専門高等学校として、スペシャリストを育成するとともに、地域に根差した人材の育成を図る。
(2)生徒が地域住民の方と連携し活動することで、コミュニケーションを図り、町全体に貢献し、やりがいを感じることができる。
(3)教員の過剰労働とならない魅力発信のやり方を工夫し、産業界の協力のもと魅力ある学校づくりをする。
(4)本校の３学科の特徴を活かした「高校生レストラン」や「ふくしかカフェ」を実践し、学校PRに努め、志願者増に向けた情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施
　○第１回総会（委員委嘱・会則・役員の承認・予算承認・事業計画）
　○第２回総会（事業報告・会計決算協議・次年度実施計画）
⑵運営委員会の実施（5月・6月・9月・12月・2月実施）各事業について報告・協議
⑶校内委員会の実施（各月実施）実施要項作成、詳細検討
⑷中学生やその保護者への本校のPR活動の充実
　○夏のオープンスクール（生徒・保護者対象）と冬のオープンスクール（生徒対象）の実施
　○９月の学校説明会での生徒の実践活動（授業や部活動）の発表
　・３学科合同イベントとして実施。生徒会が中心になり、パワーポイントを使って学校全体の説明を行った。その後学科ごと、体験学習を通して学科の魅力を参加した中学生にアピールする事ができた。
　○中学校の先生対象のPR活動　＜100校訪問（５月下旬～７月上旬）＞
　・職員による県内全ての中学校訪問とＰＲ活動
　・夏休みに中学校先生方向け学校説明会と生徒の実践活動の見学
⑸食物科（部）の活動
　・レストラン経営・県民の森オープニングイベント・かわさきキッズファームピザ販売
　・単身高齢者弁当づくり（春・秋）・自販機菓子販売・山辺小学校食育講座
　・うまいっしょ甲子園全国大会出場・県きのこ料理コンクール　最優秀賞
　・たまごニコニコ料理甲子園　アイデア賞
　・十勝マルシェコンテスト（料理コンテスト）３チーム出場　準優勝
⑹福祉科の活動
　・ふくしかカフェの実施（６/３、７/29、８/26、９/９）
　・山形県家庭クラブ研究発表大会最優秀賞、東北ブロック家庭クラブ研究発表大会優秀賞（テーマ：ふくしかカフェ「お結び」へようこそ～縁が結ぶ笑顔の軌跡～）
　・小中学校との交流授業（山辺町立山辺小学校、山辺町立相模小学校、山辺町立山辺中学校、寒河江市立陵西中学校、山形市立山寺中学校）
　・山形大学附属特別支援学校との交流学習（11/12、２/20）
　・KAiGO PRiDE部の研究発表（２名参加　動画作成）
⑺看護科の活動
　・看護クラブ活動(ゆりかご幼稚園・やまべ幼稚園・やまのべ荘におけるボランティア活動、インスタグラムでの情報発信)
　・地域医療体験セミナーの企画・実施（10/４米沢市立病院、11/15県立新庄病院、12/13鶴岡市立荘内病院）
　・フィトセラピー技術講習会（1/23）および自治会講演会（1/17）
　・看護科オリジナルグッズ作製（不織布バッグ、シャープペンシル等）

３　評価及び今後の取組み方針

＜食物科＞
　・食物科は「単身高齢者弁当づくり」や「高校生レストラン」、「料理コンテスト」等で地域の食材の素晴らしさを実感し、地域の食文化を大切にしながらメニューの作成に取組み、職業人の視点として様々なこと学んでいる。
＜福祉科＞
　・福祉科は「ふくしかカフェ～お結び～」を定期的に開催し、地域の福祉の課題と向き合い、課題解決に取組み、地域に貢献する態度を育成している。
＜看護科＞
　・看護科は４年ぶりに高校生を対象とした「地域医療体験セミナー」の県内病院見学を実施し、地域の基幹病院の必要性やはたらきについて学んでいる。
　来年度も、地域に貢献する活動を実施することはもちろんだが志願者増に向けて中学生と保護者、中学校の教員にターゲットを絞った活動に重点をおいていきたい。

４　山形県立寒河江工業高等学校

１　事業目的

⑴自治体、産業界及び大学等との連携・協働を推進し、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や学校の特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。
⑵課題研究における企業・大学等との連携・協働により、地域を学びのフィールドとした実践的、体験的な学習活動を推進し、生徒の先端的な技術・技能の習得と地域産業界への理解促進を図る。
⑶地域、中学生等に本校の産業教育や地域産業界の魅力を積極的に発信することにより、若者の地元定着及び地域産業の振興に寄与する。

２　事業実績

⑴総会の開催
・第１回：５月 27 日（月）委員委嘱、５年度決算・監査報告、６年度事業計画・予算案
・第２回：９月 25 日（水）６年度中間報告、予算中間報告
・第３回：２月 17 日（月）６年度報告・評価、中間決算の協議、７年度計画・予算協議
⑵課題研究における企業・大学等との連携・協働
・３年課題研究「海ごみロボット班」への助言・指導
工業科３科で得意分野を担当して取り組む（今年度は主に IT 科）
・他の３年課題研究への助言・指導
⑶資格取得等に向けた教育環境の整備＜新規＞　資格取得、実習等に係る機器及び物品の購入
⑷「さがえ少年少女発明クラブ」との連携
・「寒工祭見学」：10 月 19 日（土）・「ものづくり教室」：11 月９日（土）（M科）
・「寒河江工業高校見学」：新校舎、実習設備等見学：11 月９日（土）（M科）
⑸「地域に密着した高校づくり」事業
・「輪がまちマルシェ」（寒河江市商工会青年部主催）への協力：９月 29 日（日）
「ふるさとクリエイト～SAGAE まちなか芸術祭～」ワークショップブース出展（IT 科）
・「寒河江市立高松小学校でのものづくり教室」：10 月 29 日（火）午後
・「寒河江市次世代子育てステーション」でのものづくり教室 ＜新規＞：11 月 16 日（土）
・「ミニ四駆づくりにチャレンジ」クラッピンサガエ屋内遊戯施設内（R科）
⑹学校の魅力発信等に関する事業
・学校インスタグラムによる情報発信
・「街かどテレビ」による学校広告の放映　４月～３月（７月、８月、10 月、11 月に切替）
・地域向け新校舎見学会：５月 20 日（月）約 200 名の参加者
・学校ＰＲビデオの制作：６月 26 日制作完了、本校ＨＰに掲載
・寒河江市中学校３年生の新校舎見学会：７月９日（火）実施　約 120 名参加
（希望者を送迎、オリジナルクリアファイル配布）
・オープンスクール：入学者募集のチラシ作成、配布。７月村山地区中学校等へ配布
・「オープンスクール」（各科体験実習）：８月３日（土）中学生約 170 名、保護者 80 名
・「寒工祭」における資料展示・ものづくり体験：10 月 19 日（土）
・「進路相談会」の開催：中学３年生向け（10 月４日、10 月 11 日、10 月 19 日）
・中学校における学校説明会の実施（随時）
⑺学校の魅力化・特色化の検討
・インターンシップ・キャリア教育等の充実等
・ホームページ改善（ホームページリニューアル、学校行事、入学者選抜情報等随時更新）
○入学者を増やすための取組み全般に係る検討
・オリジナルクリアファイル作成（オープンキャンパス等において中学生に配布）
・寒河江市回覧板による本校パンフレットの回覧（寒河江市に依頼）
・地域中学生とのものづくりを通した放課後交流（中学校の部活休業日における交流）
・列車通学生徒の利便性向上（始業時間見直し）

３　評価及び今後の取組み方針

今年度計画した事業は概ね実施することができたものの、受検者の増加という結果には必ずしも結びつけられていないのが現状であり、中学校への聞き取り等を通して、今年度の入学者選抜の動向を分析し、より効果的な学校の魅力化・特色化とその情報発信に努めなくてはならない。

来年度も新校舎の魅力を前面に押し出しつつ、本校の明るく元気な校風を効果的にアピールしていきたい。また、次年度以降の自走を見据えながら、本校の価値の再定義を含めた学校の魅力化に取り組んでいきたい。

５　山形県立村山産業高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や経済社会の急激な変化に対応するために、県関係機関、地元自治体、地元産業界の関係者で構成する協議会において、産業界の最新事情や地域のニーズ、課題を踏まえた教育課程を開発するとともに、連携・協働により北村山地区唯一の産業高校としての特色化、魅力化に向けた新たな取組みを行い、産業教育の充実を図る。

⑵地元産業界、自治体と連携・協働し、専門高校としての特色ある研究を実施し、生徒の主体的に学ぶ力や課題解決に挑む力、コミュニケーション力の伸長を目指す。また、生徒のより高いレベルの資格取得や検定合格率を高める研修、教員の指導力を高めるための研修を実施し、専門教育の質的な向上と生徒の生き方在り方指導の充実を図る。

⑶地元産業界、自治体と連携し、学校の教育内容、地元地域と産業界の魅力について、中学生や保護者等への積極的な情報発信を行い、今後の志願者の増加と高い地元定着率の維持を目指す。

２　事業実績

⑴地域産業界等と連携した共同研究の実施

・農工連携カーボンニュートラルチャレンジ（農業科・工業科）
農業科と工業科が連携し、オウトウの霜害や高温障害の防止のために、太陽光発電パネルで発電した電力を用いて、寒冷紗を巻き上げる装置を電動化する取り組みに挑戦した。

・スマート農林業チャレンジ（農業科）
マルチスペクトルカメラを搭載したドローンを活用して、水田や畑地、森林の植物の生育情報を撮影し、画像解析ソフトやGISを活用した圃場管理や栽培状況の把握、植生の把握を行った。今年度は、蔵王連峰の樹氷の保全活動として、林野庁や山形県等と連携した。

⑵全日本製造業コマ大戦むらさん場所の開催（工業科）

・全日本製造業コマ大戦むらさん場所を11月に開催した。地元企業や県内の専門学校、工業高校などから約30チームの参加があった。
大会の実施までには、連携企業への見学やコマの設計、コマの材料の検討、回転方法や形状等に関する研究を探究学習の課題として取り組み、コマに関する小学校での出前授業の実施など多様な活動を行った。

・地元地域PR活動・村山産業高校PR活動に関する地域連携（商業科）
地元地域のPR活動として、村山市のラーメン店との「夏だし冷やし中華」の商品開発や「運麺ガチャ」という販促グッズの制作を行った。また、村山市のおすすめ観光スポットをまとめた「村産ツーリズム」の制作や村山市観光物産協会と連携した観光イベントへの参加やPRグッズの制作を行った。

⑶外部人材活用による生徒及び教員のスキルアップ

・各種技能検定試験合格を目指した外部講師の招聘（農業科、工業科、商業科）

・総合的な探究の時間や課題研究における産業の最新事情や先進事例に関する講演等の実施

⑷広報活動レベルアッププロジェクト

・学校パンフレットの刷新とHPやSNSを活用した広報の実施

・中学生・保護者向け学校説明会の充実

３　評価及び今後の取組み方針

令和７年度は、最終年度として、その後の自走を視野に入れた産業教育連携協議会の運営を行う必要がある。そのためにも委員や産学連携コーディネーターとも積極的に情報交換を行いながら、次年度の自走が順調に実施できるようにしたい。

本校では、各プロジェクトにおいて、昨年度の反省を生かし、次年度の最終年度を見据えた計画と実施に努めてきた。各プロジェクトにおいて、実施内容を効果的にマスコミなどに情報発信するとともに、地元企業などとの連携や情報交換を絶やすことなく行い、それらの成果を本校生徒の知識・技術の習得に活かしてきた。今後もその取り組みを継続するとともに、最終年度とその先の自走を見据えた活動を実施してきたいと考えている。

６　山形県立新庄神室産業高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や、社会や産業の急激な変化に対応した産業系高校の教育内容の一層の充実のため、自治体・産業界・大学等の関係者で構成する協議会において、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や、地域や産業界等との連携・協働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。

⑵生徒が、地域課題の発見、解決や、先端的な技術・技能の習得のため、関係機関との共同研究等による地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動を推進する。

⑶高校生の地元定着、県内回帰に向けた高校生への地域産業界の情報提供や、志願者増に向けた地域、中学生等への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会（協議会）の実施

○第１回総会（協議会）６月 24 日（月）（委員委嘱、役員の承認、事業計画・予算等）

○第２回総会（協議会）２月 10 日（月）（事業報告、事業評価、決算、次年度の予定）

⑵教育プログラムの検討・実施・外部講師招聘事業・先進校視察

○1 学年総合的な探究の時間における、地域産業人として必要な知識を踏まえた、地域・産業界・大学と連携した講演会の実施

・新庄市総合政策課山口氏他２名：「地域の魅力と課題」

・株式会社つなぐ代表取締役伊藤夢人氏「SDGs の概要と高校生の関わり方」

・株式会社三陽機械製作所代表取締役　黒坂浩太郎氏「下町ﾎﾞﾌﾞｽﾙｰ～諦めない精神～」

・東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科山縣弘忠氏「SDGs を活用した課題発見力」

・山形大学ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ教育研究ｾﾝﾀｰ長 小野寺忠司氏「アントレプレナーシップ」

○他校発表会視察

・11 月 14 日（木）県立長井高校課題研究発表会

・12 月 14 日（土）令和６年度山形県探究型学習課題研究発表会

・12 月 17 日（火）東北農林専門職大学附属農林大学校卒業論文発表会

⑶共同研究・地域連携活動

・ミチノクヒメユリに関する研究（株式会社テクノーブル、鮭川村、リリウムミチノク）

・スマート農業に関する研究（株式会社南東北クボタ、株式会社三和技術コンサルタント）

・昆虫食に関する研究（ハイジェントテクノロジー株式会社）

・あじさいプロジェクト（新庄市、新庄園芸株式会社）

⑷学校ＰＲ活動・学校説明会の充実等について

・学校 PR のチラシ作成と配布　3 回実施（学校説明会・文化祭・研究発表会）

・スタッフシャツとトートバック製作と活用

・公開講座（ラズベリークッキング講座）及び出前授業（ハーバリウム作り・フラワーケーキ作り）などの体験活動の実施

⑸ＨＰ、ＳＮＳを活用した情報発信

・ＨＰデザインの改修及び内容の充実及び更新。Ｘ、Instagram での情報発信の充実 。職員、生徒会役員生徒が行事等の情報発信。

３　評価及び今後の取組み方針

・外部人材等による教育資源を活用し、生徒に地域の良さを伝え、持続可能な地域社会の担い手となる人材の育成に努める。

・地元企業や行政の協力により、様々な連携した活動ができ、地元定着に繋がる取り組みが増えている。

・共同研究等を拡大し、本校の魅力や特色の充実を図り、生徒の成長と学校 PR に繋げ、募集倍率増を図る。

・情報発信、出前授業、公開講座を更に充実させることで、本校の理解度を促進し、募集倍率増を図る。

7　山形県立米沢工業高等学校

1　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や、社会や産業の急激な変化に対応した産業系高校の教育の一層の充実を図るため、自治体・産業界・大学等の関係者で構成する協議会において、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や、地域や産業界等との連携・協働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。
⑵生徒が、地域課題の発見・解決や、先進的な技術・技能の習得のため、地域を学びのフィールドとして関係機関との共同研究等による実践的・体験的な学習活動を推進する。
⑶高校生の地元定着や県内回帰に向け、高校生への地域産業に関する情報提供を行うとともに、志願者増に向けた地域、中学生への積極的な魅力発信を行う。

2　事業実績

⑴総会の実施
・第１回総会　令和６年６月 25 日（火）実施　本校大会議室　委員・事務局２１名出席
委員委嘱、役員の承認、事業内容の説明、事業計画・予算(案)の協議
・第２回総会　令和７年２月 27 日（木）実施　本校大会議室　委員・事務局１７名出席
事業報告、事業評価、中間決算報告、次年度の予定
⑵小・中学校への出前授業
・「電動モビリティ体験会」（機械生産類）令和６年 11 月９日（土）実施
市内小学生・保護者 30 名来校
・「推しうちわを作ろう！」（電気情報類）令和６年 11 月５日（火）実施
南原小学校　児童・教員　３名参加
・「化学体験教室」（建設環境類）令和６年 11 月４日（月）実施
川西中学校　生徒・保護者 11 名参加
・「鏡沼決壊に学ぶ地域の防災」令和６年 12 月 17 日（火）実施
小松小学校　生徒・教職員 11 名参加
⑶学校説明会の実施
（全校）学校見学会　７月 27 日実施中学３年生 414 名（AM233,PM181）参加
各類の見学や米沢鶴城高校開校に向けた説明
参加者用に学校ＰＲクリアファイルを作成し、配布
（類毎）令和６年度は体験活動をなくし、ローテーションで見学する形とした。
⑷情報発信媒体の検討・学校ホームページの更新
○現学校のホームページ、パンフレット、ノベルティの作成などによる効果的な広・
・Instagram など SNS を活用した効果的な情報の発信
・米工ＨＰを一新、米沢鶴城高校ＨＰ完成に向け準備中
・Instagram は生徒会、キャリア探究担当者が中心となり運用（更新 36 回ﾌｫﾛﾜｰ 1478 人）
・パンフレットを２回制作し、中学校の個別訪問を実施
⑸先進地域への視察
○10 月 21 日（月）実施　生徒 14 名　教職員６名参加
・山形大学 INOEL（有機エレクトロニクスイノベーションセンター）米沢市
INOEL での研究内容の講義、施設内とスマート未来ハウスを見学
・電動モビリティシステム専門職大学／㈱飯豊電池研究所
大学施設見学と電池や EV の仕組みの講義、分解されている EV 等の見学・体験
⑹大学等との共同研究
・バクダット電池を作る実習と電池の歴史や仕組みについて学習
・山形大学 INOEL の紹介動画作成協力　５月 16 日（木）実施
⑺ゼロエミッションプロジェクトの継続
・電動カートの製作　三相直流モーターの手巻き、性能試験などを実施
・自動操舵システム、搬送ロボット、UAV 等の活用に必要な情報を配信する基地局を設置
・ゼロエミッションエネルギー活用による LED イルミネーション
・小型水力発電の改修　など

3　評価及び今後の取組み方針

・事業の定量的な評価を行うために、事業ごとの生徒アンケートや学校評価アンケートの活用を行う。
・志願者数の増加を目指し、SNS などを活用した効果的な広報を行い多くの学校来校者の増加を目指す。
・大学との共同研究をより深化させ、工業クラブや課題研究との連携を図る。

８　山形県立米沢商業高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や、社会や産業の急激な変化に対応した産業系高校の教育の一層の充実を図るため、自治体・産業界・大学等の関係者で構成する協議会において、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や、地域や産業界等との連携・協働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。

⑵生徒が、地域課題の発見・解決や、先端的な技術・技能の習得のため、地域を学びのフィールドとした関係機関との共同研究等による実践的・体験的な学習活動を推進する。

⑶高校生の地元定着や県内回帰に向け、高校生への地域産業に関する情報提供を行うとともに、志願者増に向けた地域、中学生等への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施

・第１回総会（委員委嘱、役員選任、前年度事業報告及び決算報告、校舎見学等）
・第２回総会（事業計画・予算案の協議、意見交換）
・第３回総会（事業報告、事業評価、決算の協議、次年度の予定、意見交換）

⑵共同研究の実施

・「地域企業を知る研究」：キャリア探究と課題研究に対しての補助
・一昨年より地域企業を知る研究を行っている。具体的には、生徒が地元企業に訪問し企業見学やインタビュー等を行う。その内容を取りまとめて動画を作成し、地元企業を知ることに繋がり、地元定着率が高まっている。（令和５年度は地元定着率 85%以上）その動画を DVD や公式 Youtube にまとめる。

⑶「パンフレット情報発信」（生徒募集）

・学校見学会において、パンフレット及び記念品を中学生に配布した。
・米沢工業高校と協力して米沢鶴城高校のパンフレットを作成して置賜地区内の中学生に配布。第一弾と第二弾の２回製作した。
・学校見学会では、米商校章を刻印した閉校記念どら焼きを作り、配布した。また、中学生への案内役として３年生のほとんどの生徒から協力してもらった。
・学校の校章・校歌入りのシールを作成し、様々なイベントで配布した。
・３月末の閉講に伴って、「ありがとう米商　鶴城もよろしく」「令和８年４月より米沢鶴城高校昼間定時制として再スタート」の懸垂幕を掲げる。この目的は今までの感謝と米沢鶴城高校をＰＲするものである。

⑷「地域のお宝開発」（産業界との連携　県内定着）キャリア探究と課題研究に対しての補助

・課題研究発表会を米沢市民文化会館で実施し、キャリア教育事業に関係した方々を御招待した。また、米沢鶴城高校校歌作曲者の稲毛謙介氏（本校卒業生）による講演会を実施し、後輩に対して夢を諦めず果敢に挑戦するお話をいただき、生徒も大変刺激を受けた。

⑸米商の思い出記念行事（ＰＲ効果）→記念グッズの製作

・商業研究部で閉校記念グッズを製作した。作ったものは、制服の生地でトートバック、名刺入れ、巾着など。これらは大きな注目を集めてマスコミ等でも大々的に報道された。年度末には、生徒が考案した米商ミニグッズをガチャガチャにして道の駅米沢にて販売し、開始直後に完売して大好評であった。

３　評価及び今後の取組み方針

本校として大きな効果があったと思っているが、学校評議員・連携協議会員・そして多くの地域の方より米商の頑張りを高く評価いただいた。

令和７年より米沢鶴城高校として取り組むことになるが、令和８年度入選では定員を超えることを強く期待している。

９　山形県立置賜農業高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や急激な社会の変化に対応した教育内容の充実のため、関係者で構成する協議会において、地域の特性と要望を踏まえた教育課程の開発や、地域及び産業界等との連携・協働による特色化・魅力化に向けた新たな取組み機会の創出や充実を図る。
⑵地域を学びのフィールドとして生徒が課題を発見し、各関係機関との共同研究等により最先端の技術・技能を習得しながら解決に導く実践的・体験的な学習活動を推進する。
⑶本校生の就農及び地元定着、県内回帰に向けた地域産業界の情報提供や、志願者増に向けた地域及び小中学生等への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施
・第１回総会（委員委嘱、役員選任、前年度事業報告及び決算報告、事業計画・予算等）
・第２回総会（オープンスクール参観、校舎見学、意見交換等）
・第３回総会（事業報告、事業評価、決算の協議、次年度の予定、意見交換）
⑵生徒の中長期インターンシップの実施
・地域の農家や農業法人において、食料生産経営科１年生５名、農業資源活用科１年生１名の合計６名が１週間程度の実務研修を行うことができた。
⑶共同研究の実施「地域課題の解決への取り組み」
・ＭＰＳ認証高品質ダリアの生産と川西ダリヤ園との連携プロジェクト
茎頂培養実験により無病苗を作出する技術を習得すると共に、地域農家および川西ダリヤ園の協力を得て高品質栽培を実施できた。
・紅花の可能性は無限大～魅力あふれる商品開発への挑戦～
紅花の無農薬栽培を実施することができた。また、紅花のシフォンケーキを試作し、商品化に向けた品質とおいしさ等について研究し、紅花の可能性について学習できた。
・おせっかいなお花屋さんプロジェクト
⑷教員視察研修の実施
・令和６年度農業クラブ全国大会岩手大会意見発表会及びプロジェクト発表会視察
農業学習の活性化を目指し、先進的な研究発表の視察により知見を深めることができた。
⑸就農及び地元定着、県内回帰に向けた研修や相談会の実施
・県農林水産部農業経営・所得向上推進課と連携し、地元農業法人代表からの講話を実施
・東北専門職大学、附属農林大学校、有限会社舟形マッシュルーム、有限会社熊谷園芸の視察研修を実施し、農業に対する興味と関心の向上を図ることができた。
⑹地域に開かれた農業学習
・地域の人材を活用した農業学習の充実
・環境と調和のとれた食料システム構築に向けた研修会の実施
・本校の畑や水田、畜産施設等を活用した本校農業サポーターの育成
⑺小中学生を対象とした本校の魅力発信
・川西町立小松小学校５年生を対象とした水田における出前授業の実施
・長井市立致芳小学校５年生との花苗定植活動等の園芸交流の実施
⑻地域、産業界等からの外部講師によるスキルアップセミナーの実施
・株式会社昌和製作所　代表取締役　小関　博資　氏を講師に招き、地域の技術資源活用に関する講演会の実施
⑼ホームページ、ＳＮＳを活用した魅力ある情報発信
・スクールビュー およびオリジナルパノラマの撮影とホームページリニューアルの実施

３　評価及び今後の取組み方針

本協議会を設置し農場部一人ひとりが事業に係わることで、他の農場部職員の事業に関心を持ち、学校を輝かせ生徒を育てる方策を考える機会となっている。

10　山形県立長井工業高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や、社会や産業の急激な変化に対応した本校の教育内容の一層の充実のため、自治体・産業界・大学等の関係者で構成する協議会において、地域の二ーズを踏まえた教育課程の改善や、地域や産業界等との連携・1 窃働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。

⑵生徒が、地域課題の発見、解決や、先端的な技術・技能の習得のため、関係機関との共同研究等による地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動を推進する。

⑶高校生の地元定着、県内回帰に向けた高校生への地域産業界の情報提供や、志願者増に向けた地域、中学生等への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施

・第 1 回総会(委員・役員、事業計画の承認、教育内容の説明、意見交換)

・第 2 回総会(事業報告、事業評価、決算の協議、次年度の予定)

⑵共同研究の実施

・雲で育てる超音波ミスト水耕栽培装置「めぐミスト」山形県立産業技術短期大学校と連携高校生ビジネスプラン・グランプリ・ベスト 100 選出、山形県高校工業情報科合同研究発表会に参加、第 12 回高校生ビジネスプラン・グランプリ東北地区発表会(2/1)、長井 DX コンテストファイナルイベント参加(3/8)

⑶地域企業見学の実施

・2 学年を対象とし、西置賜地域の 8 社で実施
機械科：朝日金属工業総→繍フューメック→光洋精機繍、電子科：朝日金属工業総→槻日栄製作所→繍トップパーツ、福祉環境科：サンリットエ業騰→鵬ニクニ白鷹→日本 GT 総

⑷生徒の長期インターンシップの実施夏季休業中の各 5 日間

・生徒を対象とした長期インターンシップの実施
加賀マイクロソリューション株式会社、日本,アルカディア・ネットワーク株式会社、株式会社サンノー企画印刷

⑸小中学生への多様な広報戦略

・中学生対象学校説明・見学会
学校紹介(VTR 等)、各科・授業見学(機械・電子・福祉環境科各実習棟、教室授業
長井南中学校 2 年生を対象とした学校説明・見学会
長井北中学校 2 年生を対象とした学校説明・見学会

・学校説明会(10/5)における「ものづくり体験活動」の実施(52 人参加)
学校見学(22 人)、体験学習(41 人)「ミニ四駆を製作しよう(11)金属加工をしてみよう(3)LED を光らせよう(8)、機械学習を利用したプログラム(9)、レジンでキーホルダー(8)3DCAD でものづくり(2)

・文化祭における広報活動(10/19)模擬店の金券配布

・SNS1 こよる発信(インスタグラム開設:5/30 投稿数 145、フォロワ-238 人:2025/1/31 現在)

・小学生及び保護者向け、ドローン・3D プリンタ活用教室・ミニ四駆の計画・実施

⑹全校課題研究発表会の実施

・長井市民文化会館で、長井南中、長井北中の 2 年生を招待して実施

３　評価及び今後の取組み方針

中学生への説明会、体験学習会、課題研究発表会への招待について概ね好評であったことから、本校の入学希望者増につなげるため継続して実施する。在校生の事業も生徒に好評であり、地元企業見学、講話は引き続き継続する。これまでの工場見学だけの事業に終わらず、地元の方々の話を聞けたことで、生徒は地元に対し深く考えるきっかけになった。

SNS の投稿数、フォロワ一数を増やせるような研究、研修を行う必要がある。

11　山形県立鶴岡工業高等学校

１　事業目的

⑴地域産業界や大学等との連携を強化し、工業教育特有の実践的ものづくりや探究型学習で、創造力やデジタル技術の活用力、主体性等を身に付けさせる。また、この教育活動の中で、持続可能な地域社会の実現のため人間力を高め、地域の一員であることを自覚させながら、地域や産業の未来を創る人材の育成を図る。

⑵地域産業界の情報提供と、志願者増に向けた地域の中学生への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施

・第１回総会（委員委嘱、会則、役員、事業計画・予算（案）承認、意見交換等）

・第２回総会（事業報告、事業評価、決算の協議、次年度の予定等）

⑵第１学年の取組み

①「身近な困りごと」の深掘り

・総合的な探究の時間に、自分達が生活する上での困りごとの課題解決を考える探究学習を実施した。「防災」・「産業」・「暮らし」・「社会基盤」・「観光」・「その他」の中からテーマを選択し、４カ月の研究の後、最後に成果発表を行った。

②論理的思考力の醸成

・総合的な探究の時間に、SFC フォーラムと連携し、論理コミュニケーション演習・論述力検定受験（年２回）を行った。

⑶第２学年の取組み

○「新たな産業を創ろう！」プロジェクト

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センターと包括連携協定を締結した２年目の取組みとして、総合的な探究の時間に、「高校生向けアントレプレナーシップ（起業家精神）教育プログラム」の開発及び実施を共同で行った。

⑷第３学年の取組み（課題研究）

①養蚕自動化プロジェクト：鶴岡市、地域産業界及び山形大学等と連携し、鶴岡の産業の礎となった養蚕業の自動化をはかる研究製作を行った。

②鶴岡商工会議所との連携

⑸鶴工メタバースチャレンジ塾（NTT 東日本、株式会社 STYLY 及び鶴岡市との連携）

○XR 技術やデジタル技術に強い人材育成

・「VR（仮想現実）空間」技術向上のための制作講習会実施（NTT 東日本）

・「AR（拡張現実）」生徒が製作した作品を掲示するための講習会実施（株式会社 STYLY）

・地元鶴岡の魅力発信メタバースの検討

３　評価及び今後の取組み方針

本協議会を設置することにより、特に「総合的な探究の時間」やメタバースチャレンジ塾において、大学や地域の産業界との連携をさらに深めることが可能となった。また、専門的かつ高度な教育手法の導入により、本校の教育課程の特色化・魅力化を進めることができた。

今後は更に、外部のコンテストや発表会等への積極的参加、メタバースチャレンジ塾の成果の発信にも力を入れていきたい。校内の指導体制の整備と、教員研修による指導力の向上ためにも大学、企業とのさらなる連携の活性化を図り教育内容を一層充実させたい。

12　山形県立加茂水産高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現を目指し、特に、水産・海洋産業の発展に寄与する人材を育成するため、そのニーズを踏まえた教育課程の開発や、地域や産業界等との連携・協働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。

⑵地域や水産・海洋産業界における課題の発見と解決、また先端的な技術・技能の習得のため、関係機関との共同研究等を行うことで、地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動を推進する。

⑶本校生の地元定着、県内回帰に向けて、地域産業界の情報提供を行うとともに、本校への入学志願者増に向けた中学生等への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施

・第１回総会（令和５年度事業報告及び会計決算報告、令和６年度役員選出、令和６年度事業計画及び予算、意見交換）
　令和 6 年 5 月 29 日（水）加茂水産高校

・第 2 回総会（事業報告、事業評価、決算の協議、研究協議）、課題研究発表会見学
　令和 7 年 1 月 23 日（木）加茂水産高校

⑵課題研究・共同研究の実施

・産業界で必要とされる知識・技術を踏まえた研究内容の検討及び実施

⑶生徒の中長期インターンシップの実施

・生徒を対象とした中長期インターンシップの受入企業の調整

⑷地域、産業界等からの外部講師による進路ガイダンス・講演会の実施

・各学年に対応した進路ガイダンス等の実施
・専門家による講演を受け、知識を広げ、様々な課題について自ら探究できる力の育成

⑸中学生対象の学校説明会の充実

①体験入学（8 月 1 日、8 月 2 日）
　参加中学校 19 校　（県外 1 校）述べ 71 名参加

②学校説明会

・管理職による中学校訪問（8 月～9 月）58 校
・10 月 24 日（木）中学校進路関係者　１９校
・個別対応　5 月 24 日鶴四中、6 月 28 日山北中

③進路相談会
　参加中学校 12 校（県外 1 校）中学生 24 名　保護者 26 名　計 50 名参加

④県外生バスツアー受入れ　８月６日(火)　　７組　14 名参加

３　評価及び今後の取組み方針

産業教育連携協議会委員、本校教職員を対象に『共通的な評価指標アンケート』を実施し、昨年度と比較すると全体的に評価はあがっているが、挙げられた意見、課題等について検討し、さらなる改善を図りたい。

また、次年度は自走に向けた準備期間とし、地域産学連携コーディネーターとも協力しながら事業等、進めていきたい。

13　山形県立庄内農業高等学校

１　事業目的

⑴鶴岡市が支援し実施している、既存の「庄内農業高等学校地域連携協議会」事業を基幹事業（体）とし、時代の変化を捉えた実践的な学習と地域と連携したプロジェクト学習を進め、地域や産業界等との連携・協働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。

⑵入学志願者の確保に向けた情報発信を、教師と生徒が協働し実施する。

⑶日本学校農業クラブ連盟の諸活動や各種協議会への生徒派遣・視察を通し、生徒の積極的な取り組みを支援するとともに、上位入賞等への持続可能性のある学校農業クラブ活動を実施する。

⑷農業科教職員の資質向上を目指し、姉妹校の食品加工科研修や先進地、先進事業研修を実施する。

２　事業実績

⑴昨年度より、学校 web サイトの改変を外部委託した。今年度も引き続き外部委託し、セキュリティ対策も含めて実施した。

⑵昨年度より、3 か年計画で実施している、本校の魅力を紹介する PV の第 2 弾を外都委託し作成した。また、Youtube 上に本校の【公式】チャンネルを設置し、プロジェクト発表会等の限定生配信を実施した。

⑶学校農業クラブ活動の持続的な上位大会掛場並びに入賞を見据えて、教職員と生徒の派遣事業を行った。

⑷『農業機械』等の授業においてアーク溶接技術の習得、免許取得講習等が可能となるよう、教職員の資格取得を実施した。

⑸地域への本校の魅力発信を生徒会が企画し、生徒会主催の「庄農市場（庄農マルシェ）」を鶴岡と酒田において実施した。

⑹本校の未利用生産物であるクルミを、家庭科の授業において加工し、ふれ売り等で披露し、本校の魅力発信を行った。

⑺卒業生の料理人を講師として招聘し、地域の農産物や地域の伝統料理についての講習を家庭科の授業において実施した。

⑻米粉の利活用や商品化に向けて、加工品の販売実績のある店舗と協力し、指導講習会を実施した。

⑼姉妹校である台湾の国立苗栗高級農工職業学校へ食品科学科の教職員を派遣し、授業内容やカリキュラムを学習するとともに、同じ米飯文化圏であり米粉の利活用の食文化もある同国で飲食店等における先進地視察研修を行った。

⑽10 年目を迎えた台湾修学旅行における新たな農業高校生ならではの学びを開拓する為、次年度訪台予定の学年団より教職員を派遣し、農産物販売の可能性やグリーンツーリズムを学べる施設等への先進地視察研修を行った。

３　評価及び今後の取組み方針

企画の実現に向けた、それぞれの担当者との対話を通じて、丁寧な対話による納得解の醸成が重要であることを関係者が理解するとともに、従来の継続企画に対しても様々な視座を持った関係者が、生徒と学校と云う同じ方向に視点を向けることができた。

今後は、各自が実施した成果を完成年度に向けて深めていく必要がある。その為に、次年度は当事業により多くの関係者が関りを持つようなシステム作りを検討する。

14　山形県立酒田光陵高等学校

１　事業目的

⑴持続可能な地域社会の実現や、社会や産業の急激な変化に対応した産業系高校の教育内容の一層の充実のため、自治体・産業界・大学等の関係者で構成する協議会において、地域が一丸となった人材育成の在り方、地域のニーズを踏まえた教育課程の開発や、地域や産業界等との連携・協働による特色化、魅力化に向けた新たな取組みの機会の創出や充実を図る。

⑵生徒が、地域課題の発見、解決や、先端的な技術・技能の習得のため、関係機関との共同研究等による地域を学びのフィールドとした実践的・体験的な学習活動を推進する。

⑶高校生の地元定着、県内回帰に向けた高校生への地域産業界の情報提供や、志願者増に向けた地域、中学生等への積極的な情報発信を行う。

２　事業実績

⑴総会の実施

・第１回総会（委員委嘱、会則、役員承認、教育内容の説明、意見交換）
・第２回総会（事業計画・予算（案）の協議、今後のスケジュール確認、意見交換）
・第３回総会（事業報告、事業評価、決算の協議、次年度の予定）

⑵協議会自走に向けた研究

・酒田市副市長を交えた情報交換会（本校３名、酒田市関係者約７名）
・県地域産学連携コーディネーターを交えた情報交換会

⑶動画制作

・教育系 YouTuber 葉一氏とのコラボレーションによる動画撮影、制作と公開

⑷共同研究

・酒田船箪笥プロジェクト：完成し、ユネスコ展示に向け航海中
・紙の絆プロジェクト：シュレッダー紙を再利用した紙すき体験、ランプシェード製作教室

⑸研修会

・「ＶＲアーティストによる講演会」（せきぐち　あいみ　氏）
・「映像制作会社代表に学ぶ講演会」（株式会社ＪＰＤ　代表取締役　菅　聡　氏）
・「公益の心」とウェルビーイングを育む講演会（サイヒロコ　氏）
・教員を対象とした動画制作研修会（文部科学省リーディング DX 事業と連携）
※生徒向けは実施せず
・教員向け研修会「教育現場での著作権と生成ＡＩ利用の注意点」（弁護士 田中雅敏 氏）
・「社会で役立つ、知的財産権と（生成）ＡＩの話」（弁護士 田中　雅敏 氏）

⑹学校説明会・学校見学会等の実施

・小学生学校訪問・・・昨年度５校から、８校へ増加
・情報みらい工房・・・昨年度同様、小中学生対象に実施
・入学者選抜要項説明会（中学校教員対象）
・小学校出前授業「建設業の役割を豪雨災害から学ぶ、ドローン操縦体験」（富士見小 他）

⑺その他

・「リアルメタバース体験」（株式会社 STYLY　澤田　有人　氏）
・「未来のエンジニアへ：ロボティクスの最前線からのメッセージ」
（国立研究開発法人産業技術総合研究所　名誉リサーチャー比留川　博久　氏）
・「一般社団法人 SAI - 平和の文化 - と酒田光陵高等学校の教育連携に関する協定」調印式

３　評価及び今後の取組み方針

本協議会の設置により、本校の活動に対する理解が深まると同時に、各委員の所属機関との情報交換や協働事業が促進され、本校の教育活動の質が格段に向上した。

来年度は、本校の他の国・地域の委託事業等と協力して、特に事業の目的（２）（３）に引き続き注力する。

7　ルーブリックを用いた事業評価と目標

NO	項目＼到達度	到達度 1	到達度 2	到達度 3	到達度 4	R6現状	目標
1	学校経営 スクール・ポリシーの策定・見直し	スクール・ポリシーは策定・共有されていない。もしくは、今までの学校目標等のまま、特に対話や改善もしていない。	スクール・ポリシーは管理職や学校内の一部のメンバーで、策定・共有されている。	スクール・ポリシーは、学校内の教職員全体で、策定・共有されている。	スクール・ポリシーは、教職員をはじめ生徒や学校外の関係者等が参画し、策定・共有され、次の見直しに向けて検討されている。	3.3	3
2	学校経営 目指す学校像の共有・浸透	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に共有されていない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に形式的には共有されているが、理解・納得されていない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に理解・納得されているが、日常的に参照・活用されていない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像は、生徒・教職員をはじめ関係者に日常的に参照・活用されている。	3.3	4
3	学校経営 校内推進体制の整備	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現（地域連携を含む）に向け、実際に動く体制はない。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現（地域連携を含む）に向け、管理職や一部のメンバーが個人的に動いている。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現（地域連携を含む）に向け、実質的に動く チームや校内組織が整備されている。	スクール・ポリシー等の目指す学校像の実現（地域連携を含む）に向け、教職員全体で組織的・一体的に動く校内体制が整備されている。	3.1	4
4	学校経営 業務の精選・分担	スクール・ポリシー等に基づいた地域連携や教育活動は業務内容の精選・再編等の見直しはされておらず、業務は増えている。	スクール・ポリシー等に基づいた地域連携や教育活動は業務内容の精選・再編・再編等の見直しがされたものの、業務は縮減されていない。	スクール・ポリシー等に基づいた地域連携や教育活動は業務内容の精選・再編等の見直しがされ、学校内での役割分担のもと、業務の適正化が進められている。	スクール・ポリシー等に基づいた地域連携や教育活動は業務内容の精選・再編等の見直しがされ、学校外の関係者も含めた役割分担のもと、業務の適正化が進められている。	2.9	3
5	教育課程 地域との連携による力リキュラムの開発	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力ある教育活動が、課題研究や総合的な探究の時間等の一部分で個人的に取り組まれている。	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力ある力リキュラムが、総合的な探究の時間や課題研究等においては、系統的・組織的に取り組まれている。	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力ある力リキュラムが、総合的な探究の時間等と各教科・科目を相互に関連付けながら教育課程全体として、系統的・組織的に取り組まれている。	育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力ある力リキュラムが、教育課程外の取組みとも相互に連携・関連付けられながら学校全体として、系統的・組織的に取り組まれている。	3.1	3
6	学校経営 広報・生徒募集（地元）	地元（通学圏内）からの生徒募集に向け、効果的な魅力発信や生徒募集施策を検討できておらず、今まで通りの広報を行っている。	地元からの生徒募集目標を設定し、生徒募集に向けて、中学校や保護者・生徒へのヒアリング等により、生徒募集における現状・課題等の把握は行っているが、効果的な魅力発信や募集施策は行われていない。	地元からの生徒募集目標を設定し、現状や課題を踏まえた魅力発信や生徒募集施策の改善を行っているものの、志願者を期待通り確保することはできていない。	地元からの生徒募集目標を設定し、生徒同士の交流活動や中学校と連携した取組み等を通じて、学校の魅力が中学生や保護者、中学校等へ効果的に伝えられており、志願者を期待通り確保することができている。	3.1	4
7	教育課程 学習者中心の教育活動	課題研究及び探究学習において、生徒一人一人が自己の興味・関心等に基づいた学びを行えず、在り方生き方を主体的に考える機会もなく、高校生活を送っている。	課題研究及び探究学習において、生徒一人一人による自己の興味・関心等に基づいた学び、在り方生き方を主体的に考える機会の必要性は理解されているが、機会の提供はできていない。	課題研究及び探究学習において、生徒からの生徒募集目標を設定し、生徒の生徒が自己の興味・関心等に基づいて学び、在り方生き方を主体的に考え、進路を自分自身の考えで決定している。	課題研究及び探究学習において、一人一人が自己の興味・関心等に基づいて学び、在り方生き方を主体的に考え、多様な進路希望を選択・実現できるようになっている。	3.4	3

評価は、各学校産業教育連携協議会において出席委員により実施した。

ＮＯ	項目＼到達度		到達度　1	到達度　2	到達度　3	到達度　4	R6現状	目標
8	教育課程	生徒の主体的参画	フューチャープロジェクト等の地域連携事業の企画･運営･推進において、生徒の参画機会は与えられていない	フューチャープロジェクト等の地域連携事業の企画･運営･推進において、生徒に役割が与えられ、参画している。	フューチャープロジェクト等の地域連携事業の企画･運営･推進における意思決定の際に、生徒に意見提供の機会が与えられ、参画している。	フューチャープロジェクト等の地域連携事業の企画･運営･推進における意思決定に生徒が主体的に参画している。	3.0	2
9	協働体制	協働体制の構築	高校と産業界･関係機関等が、対話や合意形成を行う会や体制はない。	高校と産業界･関係機関等が、情報交換や意見交換を行う会はあるが、方針･計画･予算等の合意形成や承認を行う体制は構築されていない。	高校と産業界･関係機関等が、方針･計画･予算等の合意形成や承認を行う体制は構築されているが、事務局案の追認等に留まり、具体的･実質的な対話はされていない。	高校と産業界･関係機関等が、具体的･実質的な対話を行うとともに、方針･計画･予算等の承認･意思決定を行う体制が構築されている。	3.5	4
10	協働体制	協働活動の推進	フューチャープロジェクトにおいて、高校と産業界･関係機関等は目標の共有や協働活動ができていない。	フューチャープロジェクトにおいて、高校と産業界･関係機関等が目標の共有はしたが、連携した具体的な活動は実施できていない。もしくは、学校からの依頼に応じた連携活動は実施しているが、目標の共有はできていない。	フューチャープロジェクトにおいて、高校と産業界･関係機関等が目標を共有し、計画的に活動を実施できているが、地域や関係機関等が学校を支援する一方向的な連携に留まっている。	フューチャープロジェクトにおいて、高校と産業界･関係機関等がパートナーとして目標を共有し、学校を支援するという一方向的な活動に留まらず、多様な協働活動を継続的に実施できている。	3.5	4
11	協働体制	PDCAサイクルの確立	フューチャープロジェクトにおいて、具体的な目標･指標は設定されておらず、対話を通した振り返りや評価も行われていない。	フューチャープロジェクトにおいて、具体的な目標･指標が設定され、各種データによる確認はされているが、対話的な振り返りや改善は行われていない。もしくは、各種データ等によるエビデンスに基づいていない対話や振り返りが行われている。	フューチャープロジェクトにおいて、具体的な目標･指標が設定され、各種データ等のエビデンスに基づき教職員が対話的に評価･改善を行っている。	フューチャープロジェクトにおいて、具体的な目標･指標が関係者に共有され、各種データ等のエビデンスに基づき、教職員に加え関係者等も含めて対話的に評価･改善が行われている。	3.1	4
12	協働体制	コーディネーター･外部専門人材の確保	関係機関等との連携協働を推進する地域産学連携コーディネーター及び外部専門人材(産業実務家教員)の必要性は認識されていない。	関係機関等との連携協働を推進する地域産学連携コーディネーター及び外部専門人材(産業実務家教員)の必要性は認識されているものの、求める要件に見合う十分な財源確保ができていない。	関係機関等との連携協働を推進する地域産学連携コーディネーター及び外部専門人材(産業実務家教員)に求める要件の設定と財源確保はできたものの、求める要件に合う人材を採用･配置できていない。	関係機関等との連携協働を推進する地域産学連携コーディネーター及び外部専門人材(産業実務家教員)が採用･配置され、効果的に育成･活用されている。	2.9	4
13	協働体制	資金･財源の確保	フューチャープロジェクト等地域との連携について、今まで通りの学校予算以外に、資金や財源の確保はできていない。	フューチャープロジェクト等地域との連携について、国や都道府県の事業等により、当面の資金確保はできているが、当該事業等の終了後の資金確保の目途は立てられていない。	フューチャープロジェクト等地域との連携について、行政の制度や計画に位置づけられるなど、持続的な予算･財源確保の目途が立てられている。	フューチャープロジェクト等地域との連携について、行政による持続的な予算･財源確保に加え、寄付等を活用し自由に使える資金も確保できている。	2.3	3
14	協働体制	価値理解	【価値理解:なし】 フューチャープロジェクト等地域との連携について、取組の必要性や価値･効果は定量的に可視化されておらず、その必要性も関係機関に理解してもらえていない。	【価値理解:定性的な理解】 フューチャープロジェクト等地域との連携について、取組の必要性や価値･効果は定量的に可視化されていないが、その必要性を関係機関に理解してもらえている。	【価値理解:データで取組の必要性を可視化。取組効果の可視化は未了。】フューチャープロジェクト等地域との連携について、取組の必要性や価値が可視化され、関係機関等に共有されているが、取組効果は可視化されていない。	【価値理解:データによる取組効果まで可視化】 フューチャープロジェクト等地域との連携について、取組の必要性や価値･効果がストーリー全体を支える形で可視化され、関係機関等に共有されている。	3.2	2

８　運営委員会事業評価

１　委員からの主な意見・事業評価

（１）鈴木　英夫　委員（上山市副市長）

・ルーブリックを用いた評価について、定量的な評価となっており良い。
・各校の取組みは素晴らしい。その取組みの発信が重要かと思う。産業系高校をこれからも残していく取組みが大事。発信により生徒募集につなげること。また卒業生が地元に残るような取り組みを継続すること。
・上山明新館高校における地域の農業現場と学校をつなぐ事業の継続や高大連携で山形大学に入学（地域を生かすための社会共創デジタル学環ができる。）して地域人材を生み出していくこと。
・令和８年度からの自走化が大事。予算がなくなると厳しいのではないか。県でも検討をする必要があろうかと思う。

（２）帯谷　伸一　委員（東北ハム株式会社代表取締役）

・地域連携協議会や各校が設置されている地域の特色を生かした活動を継続すること。例として、鶴岡工業のシルク、養蚕にスポットを当てた活動や山形工業の蔵王温泉への着目。
・鶴岡工業高校の活動で見られる、1 年次に SFC による論理的思考について学び、2 年次に山形大学によるアントレプレナーシップを学び、1・2 年次の学びを活かしたうえで 3 年次に課題研究と取り組んでいる点が良い。その結果 3 年生の課題研究のクオリティが高い。地域課題と結びついている。系統的・組織的な学びとなっている。例として建築科の机制作一つとっても産業の方のアドバイスをいただいて、製品改善をして、地元の祭りである寒ダラ祭りで製品を提供して、祭り参加者からフィードバックを得て、改善をしている点がよい。探究型学習の好事例である。実際に売ってほしいという声があり、3 万円の価値があることが判明する等と社会活動として成り立っている点が素晴らしい。産官学連携にもなっている点がよい。
・令和８年度からの自走化が大事。自走に向けた財源確保が重要となる。産業界からの財源を調達するために、これらの取組みの広報を重視すること。今年度鶴岡工業では商工会議所と連携して 27 社に共同研究の種や課題を提供してもらい、そのうち 3 社が鶴工と共同研究を行った。インターンシップとはまた違う形で地域企業連携や共同研究が進んでいる。このことは生徒のキャリア形成、地元企業の魅力発信になる。これらの取組みが定着する事が重要。
・自走化に向けた一つの取組みとして、上記の好事例を周知する活動をすること。そのために商工会議所を利用して周知する手段もあるのではないか。企業としても高校にアプローチしたいが、どうアプローチや協力してよいかがわからない。その現状を踏まえ、つなぎ役として商工会議所も肝になるであろう。

（３）佐藤　俊一　委員（山形県立産業技術短期大学校長）

・企業と学校の連携は、Win-Win の関係であるべき。学校からお願いではなく、企業は学校のパートナーとなるべき。
・ルーブリックを用いた評価の５「地域との連携によるカリキュラムの開発」において集計中であるとはいえ「３」（育成する資質・能力に向けて、地域・社会の資源を活用した特色・魅力あるカリキュラムが、総合的な探究の時間等と各教科・科目を相互に関連付けながら教育課程全体として、系統的・組織的に取り組まれている。）まで達成している点は評価できる。
・自走に向けた予算措置は重要。令和 7 年度でフューチャーとマイスターの二つの梯子が外れるのは、学校としては厳しいのではないか。
・産学連携コーディネーターとの令和８年度以降の継続的な契約や関係を継続することが重要である。それが持続的な産業系高校の魅力化につながる。

・参考として、産学連携がうまくいっている事例として「やまがたAI部」がある。企業からの協力が大きい。企業側の協力するメリットとして、どれだけ人材が入ってくるかは分からないが未来への投資として考えている点。高校生への企業PRになっている点。高校生といった若い人材と社員が交流するだけでも車内が活性化する点。等である。また産学官の利害が一致している。官：若者定着。産：デジタル人材育成。学：探究型学習の促進。CSR：企業の社会的責任を果たす利点がある。山形の企業は長い目で見てくれていると感じる。（AI部の一期生が大学3年生になる。誰かAI部から入社してくれたらうれしいというのはある。）他県ではここまでうまくいっていない。
・学校側は、令和7年度で事業が終わって、次の事業を待っている姿勢にならないこと。一方で、学校の今までの取組みを尊重しながら、活性化できるような仕組みが大事。制約や自由度が少ない事業では学校が継続できない。学校の意思を大切にしながら、継続できる仕組み作りを意識すること。（行政は今までと違いを気にするが、継続性が大事。そこは生徒と教員の笑顔を守るために、行政から予算を勝ち取ってほしい。）。
・県事業として強制的に始まった事業ではあるものの、良い取組みとして定着しかけているものを、定着できるよう予算措置は重要である。

（4）髙橋　良治　委員（山形県立山形工業高等学校長）
・ビジョンの重要性とブラッシュアップが重要。例えばAI、メタバース、サステナブル、グリーン等。いつまでも古い考えにしがみつかないこと。例えば工業機械＝旋盤では古い。
・各校取組みが社会実装することが重要。社会実装すれば資金獲得し、自走化につながる。
・訴求力の高い取組みとSNSを活用した広報が重要。
・協議会等、外部を交えた会議では前回や前年の反省を改善につなげて、進めることが重要。
・コーディネーターと管理職（特に校長）との情報交換やミーティングが大事。外部のフラットな視点が重要。開かれた学校になるべき。
・コンピュータを中心とした産業振興設備が古くなっている。訴求力の高い取組みを実施する上で、10年前近いコンピュータでは厳しい。県やDXハイスクールを活用して更新することが重要。

２　委員長総括・事業評価

○栗山　恭直　委員長（山形大学理学部教授）
・ルーブリックを用いた評価はよい。プロジェクト全体の立ち位置が明確となっている。ルーブリックを用いた評価やスクール・ポリシー等を地域に明確に伝えることが重要。まだまだ活動とポリシーと結びついていない。地域や地域産業の課題とポリシーが一致していると良いのではないか。
・コーディネーターの活動に関して、学校の要請に応じて、学校をクロスさせた取組みはよい。複数の視点が入っている。
・鶴岡工業高校の一貫したアントレプレナーシップ教育をほかの学校が視察したり、ユニット化したりするなど、他校がまねしやすい状況を生み出してはいかがか。
・各校の課題解決したプロセスや自走化に向けた外部資金獲得等ナレッジを、学校間で共有化することが有効ではないか。ICTを活用してGoogle Classroom等で情報共有してはいかがか。
・企業のニーズと学校がタッグを組んで取り組むことが重要では。企業自体もアップデートのきっかけになる。学校と企業のWin-Win関係が築けると思われる。
・学校説明会自体を生徒に実行させてみるのも良いのでは。それ自体を探究活動として取り組ませる。
・本事業や他活動でも頑張っている先生がいてくださることはありがたいが、働き方改革に資することや持続可能性を考慮することも重要である。取組に対して教員同士ペアで対応して、休みを確保する等。
・訴求したいターゲット層を明確にしたSNS発信が重要。

９　今後の課題・取組みについて

（１）地域連携の更なる充実

①産官学、高大連携・共同研究の推進
②幼、小、中、高齢者等との協働

（２）キャリア教育（インターンシップ等）の一層の充実

①長期インターンシップの受け入れ事業所の壁
②産業界のスペシャリスト（産業実務家教員）の積極的な活用

（３）入学志願者増に向けて

①学校の魅力発信（ＳＮＳ等の効果的な活用）
②産業系高等学校からの多様な進路先の確保・ＰＲ

（４）産業教育連携協議会委員の積極的な参画

①産業教育連携協議会委員の学校教育活動への積極的な参画
・産業界５９名　・経済団体等１８名　・行政（県市町）３７名
・教委７名　・大学等１９名　・小中学校４名　・学校関係者３１名
・地域・町内会等５名　・その他２名　計１８２名（令和６年度委員）

（５）事業評価と分析について

・次世代分野研修等個別事業の評価、全体ルーブリック評価と分析等事業評価の充実を図る。

令和6年度　魅力ある県立高校づくり推進事業
「フューチャープロジェクト」
「マイスター・ハイスクール普及促進事業」
成果報告書
発行日：令和7年5月
発行者：山形県教育局高校教育課
〒990-8570
山形県山形市松波二丁目8番1号